

經濟學の將來

東京經濟學研究所編

330.4  
T.463



始



330.4  
T0463



編所究研學濟經京東

來將の學濟經

者席出論討

●	×	▲	●	○	○	△	×	▲
沖	黑	森	高	山	中	大	土	有
中	澤	田	橋	田	山	河	屋	澤
恒		優	泰	雄	伊	内	喬	廣
幸	清	三	藏	三	郎	男	雄	巳



## 序

凡そ眼に觸れる一切のものが、こんなひどい變り方をしたといふ事は殆んど前例がない。ひどく變れば變るものだと一人残らず嘆聲せざるを得ない現狀である。此様な事態の内に、經濟學だけが超然として舊態の儘で居られる譯がないとは誰しも考へるに違ひない。殊に、社會主義の攻勢が、思想と政治との兩面から資本主義に肉迫して來るし、自由資本主義ではインフレーションにしる失業問題にしる生産の恢復にしる、何一つとして解決されないといふ事は既に今日の常識である。經濟學はどうなるかといふ質問が出るのは當然と言はねばならぬ。

此様な現狀に於て、これは當然の質問であり、あたり前の質問であるにも拘らず、之れに對して答案を書くとなると仲々容易な事ではない。大學専門學校の教授は此様な質問を何回となく學生生徒から受けるであらうし、それでなくとも經濟學者である以上は此問題に就て考へ込まないわけには行かない。然し心から自信のある回答は容

易には出て来ないだらうし、考へる程問題は複雑になり困難になつて来る。

そこで此様な問題。——實は此問題は嘗に吾々の思想問題である許りではなく、人間全體の問題であり、日本の生き方の問題であり、吾々個人個人の日常生活の問題でもあるのだが——これは一應色々な立場にある經濟學者が集つて、ユツクリ虚心坦懐に、思ふ存分話し合つて見るのが一番好いのではないかと考へた。勿論立場が違ふのだから必ずしも一致した結論に到達するとは言へない。然し又形の上の、或は言葉の上の相違が懇談の内に相互に理解され合ひ、根本的に對立すると考へられて居たものも何等かそこに共通のものが見出され、或は少くとも共通のものに向つて進む可能性のやうなものが見出されるかも知れない。一つの結論に到達しなければしないで、又共通のものが見出されれば又それなりに、經濟學の發展の爲めに大きい寄與となるであらうし、學生諸氏や世の知識層から當然出る可き質問に、而も納得する迄の答に接し難い質問に一番よく答へる事ともなるだらう。

東京經濟學研究所が下記の方々にお集りを願つて此問題を探り上げたのは以上の様

な意味合からである。目次を一覽すればわかるやうに、問題は非常に廣汎であり、複雑であり、又屢々微妙である。最初三回の懇談會で大體目的が達しられるかと考へたのであるが、實際やつて見ると仲々それでは追つかない。結局回を重ねて五回になつた。實はせめてもう二回程開きたかつたのであるが極度に多忙な方々に、交通が不便で不愉快な此際以上の犠牲を御願することは出来なかつた。然し大體皆さんの腹藏のない意見は出たものと考へても好いし、充分とは行かない迄も凡その目的は達しられたものと思ふ。

懇談會に出席して下さつたのは左記の方々であり、深く御禮申上げる次第である。

東京帝大からは、有澤廣巳教授、山田盛太郎教授、土屋喬雄教授と當研究所委員の大河内一男教授、東京産大からは山田雄三教授、高橋泰藏教授と當研究所委員の中山伊知郎教授、横濱高商からは森田優三教授と當研究所委員の黒澤清教授である。それに中大から當研究所委員沖中が出席して司會者の大役をやらされた。唯之等出席して頂いた方々の内、山田盛太郎教授の御話は色々な都合から此處に掲載する事が出来な

つた。研究所としては極度に遺憾であり、讀者の方々も非常に残念がられるに違ないし、本書の編輯責任者沖中としては教授に對しても讀者や研究所に對しても誠に申譯なく思つて居る。深く御詫する次第である。

本書を前篇と後篇とに別けてあるが、前篇には懇談會の速記を生の儘出した。尤も生の儘とは言ふものゝ、懇談會の話の通り少しも整理しないで出したのでは讀物にならない。前後の脈絡をつけ、重複した所は削り取り、話が横にそれた所は眞直ぐにし、一つの形に整へ上げる必要がある。然し餘り整へ過ぎると懇談會の味がなくなるし、話の抑揚も失はれる。此味と抑揚とを失はない限度で整理しようとする努力しては見だが、仲々六ヶ敷しい仕事で成功したかどうか。尙此速記録を一應出席された方々の一人一人に見てもらつて手を入れて頂くのが本當であるが、近頃の事情からそれが出来なかつた。だから或は速記の誤りがあつたり、整理に當つて誤解があつたりした場合は、全部編輯者の責任であるといふ事を特に申上げておき度い。

後篇は前篇を材料に、初學の人達の爲の解説として平易に纏め上げたものである。

之は多少前篇と重複する嫌がないでもないが、初學の人には幾分難解な問題もあるし、話をたどつて行つては却つて話の要點をハッキリ讀みとるのに困難な場合もある。そこで問題の所在を明示すると共に、意見の對立する場合はその對立點、共通の場合はその共通點を問題毎に浮び出させ乍ら、全體を組織して見たわけである。初學の方は此後篇を先づ讀んで、それから前篇に移られた方が便利かと思ふ。此後篇は全部沖中の筆になるのであるから、懇談會の出席者には何の責任もない事は謂ふ迄もない。

尙、東京經濟學研究所は、目下の處中山伊知郎、大河内一男、黒澤清、沖中恒幸の四名を委員とする純研究團體であるが、今後必要に應じて此種の對外活動をもして行くつもりである。

昭和二十一年九月三十日

沖 中 恒 幸

# 經濟學の將來

東京經濟學研究所編

## 目次

### 前篇

#### I 緒論

- A 經濟が變化すれば經濟思想も變化する……………一
- 1 徳川中期と後期との二つの農業思想……………二
- 2 明治初期のインフレ思想は今日のインフレ思想と同じではない……………四
- 3 然し明治初期には外國思想の單なる模倣が支配的であつた……………一〇
- 4 第二次大戦の經濟的變化は計畫經濟思想を支配的にした……………一三

B 科學としての經濟學は變化するか……………二

1 經濟學の内容・形態は變るが本質は變らない……………二〇

2 計畫經濟と結びついて統計的研究が進歩し  
經濟學の内容を豊富にする……………二四

## II 資本主義は將來何うなるか

— 計畫經濟か社會主義經濟か —……………二九

1 完全雇傭の問題は資本主義の枠内で解決され得るか……………二九

2 當然、資本主義か社會主義かの問題になるのではないか……………三五

3 需要の原理と生産力の原理……………四六  
— 二つの原理と生産力との關係 —

4 資本主義の發展程度によつて問題解決の方式が違ふ……………五一

5 我國の資本主義は何うなるか……………五三  
— 合理主義へ —

## III 計畫經濟の發展は經濟學の

性格にどう影響するか……………五

1 計畫經濟乃至社會主義經濟に於ても經濟學が  
アトミスティックな見方に立つといふ性格は不變である……………五

2 然し構造の分析理論乃至マクロ・コスミックな  
立場が益々前面に出て來る……………六

3 ミクロ・コスミックな立場とマクロ・コスミックな  
立場とは綜合され得るか……………六

4 經濟構造なり、經濟秩序の見方なりが發展するに  
伴つて經濟學の方法論も亦發展する……………七

## IV 資本主義的經濟學と社會主義的

經濟學との統一は可能であるか……………八

A 方法論の立場から……………八三

1 經濟學の二つの方向……………八三  
——現象の計量と社會性の究明——

2 第三の理論による統一……………八六

3 資本主義經濟學と社會主義經濟學との區別はどこで立てるか……………九二  
——コエキザスタンス分析とカウザリテートの追跡——

4 二つの立場は何を反省し、如何に統一さる可きか……………九六

5 二つの經濟學に共通の理論概念が何うして出來上るか……………一〇〇

B 批判的態度の立場から……………一〇四

1 二つの經濟學に共通な科學性と經濟學の連續性の問題……………一〇四

2 技術的批判と歴史的批判との交渉……………一一一  
——綜合としての交渉か、繼受としての交渉か——

C 階級の立場から……………一二七

- 1 社會主義經濟に於ても今日の意味の經濟學はあり得るか……………一二七
- 2 資本主義的經濟學の中に階級と無關係の部分があり得るか……………一二三
- 3 階級を離れた經濟的計量は可能か——統計の客觀性の問題……………一二六

V 今後の經濟學に於ける倫理の地位……………一三三

A 資本主義經濟に於てもヒューマニティーの色彩が濃厚になつて來たといふ問題……………一三三

1 將來の計畫經濟ではヒューマニティーが前面に出て來る……………一三三

2 資本主義が發展すればモラルの要素が強くなるといふ問題……………一三三

3 資本主義の矛盾の表現としてのヒューマニティー……………一三六

B 國家と階級とを超えた人間的立場……………一四一

1 資本主義的經濟學に於て人間的立場がどうして展開されたか……………一四一

2 資本主義的な人間の立場と社會主義的な人間の立場との對立……………一四五



後篇

I 問題の提起……………一五二

——經濟學の將來が何故問題になるか——

- 1 問題提出の三つの動機……………一五二
- 2 マルクス主義經濟學と理論經濟學との交渉並に  
第三經濟學の可能性……………一五六

II 經濟・經濟思想・理論經濟學……………一六四

- 1 經濟思想と理論經濟學の變化に就て……………一六四
- 2 經濟の變化は經濟思想を如何に變化せしめたか……………一六七  
徳川時代の農業思想(三七)——明治時代のインフレ思想と現代のインフレ思想(四一)——第二次大戰後の經濟思想(五〇)
- 3 これが理論經濟學に如何に影響するか……………一七七

III 資本主義經濟は何ふなるか……………一八六

- 1 經濟學の將來と資本主義の將來……………一八六
- 2 資本主義經濟と完全雇傭……………一八七  
ピヴァリツヤの完全雇傭論(七九)——資本主義か社會主義か(九四)
- 3 日本資本主義の將來……………二〇一  
需要の原理と生産力の原理(一一〇)——合理主義の途(一二四)

IV 計畫經濟と經濟學方法論……………二二二

- 1 ミクロ・コスミック分析とマクロ・コスミック分析……………二二二
- 2 二つの分析理論の交渉……………二二六  
經濟學のミクロ的性格は失はれるか(一四二)——何れの分析理論が基調になるか(一四八)
- 3 經濟の發展と方法論の發展……………二三三

V 資本主義的經濟學と社會主義的經濟學との交渉……………二二六

A 方法論の立場から……………二二九

1 資本主義的經濟學・社會主義的經濟學の意味……………二三九

2 二つの經濟學の統一……………二三二

イ 統一は不可能だといふ立場……………二三二

經濟學の二つの任務(一七九)——二つの經濟學は交渉しつゝ併行する(一八三)

ロ 統一が可能だといふ立場の一……………二三五

原型としての理論(一八七)——共通の地盤の形成(一九二)

ハ 統一が可能だといふ立場の二……………二四〇

相關々係の分析と因果關係の分析(一九七)——二つの立場の反省(二〇〇)

ニ 共通の地盤の形成の爲めに……………二四三

計量的立場の反省(二〇四)——社會的立場の反省(二〇六)

ホ 理論概念の統一に就て……………二四六

概念の社會的制約(二一〇)——概念も亦統一化の傾向にある(二一一)

B 批判的態度の立場から……………二四九

1 共通の地盤としての科學性と連續性……………二四九

イ 批判的と科學性……………二四九

何れの經濟學も批判的である(二一七)——批判的なるが故に科學的である(二一八)

ロ 連續性の問題……………二五二

2 技術的(理論的)批判と歴史的批判の交渉……………二五三

イ 二つの批判的態度……………二五三

ロ 綜合としての交渉……………二五五

ハ 繼受としての交渉……………二五七

C 階級の立場から……………二五九

1 無階級經濟學の可能性……………二六〇

イ 可能といふ考方……………二六〇

無階級社會に於ける無階級經濟學(二五三)——異質經濟學の内容よりの接近(二五六)  
ロ 不可能といふ考方……………二六五

2 社會的制約のない計量の可能性……………二六七

IV 經濟學と倫理……………二七〇

1 資本主義の矛盾の表現としてのヒューマニティー……………二七二

2 人間的立場の展開……………二七六

目次了

前  
篇

# 經濟學の將來

東京經濟學研究所編

前編

I 緒論

A 經濟が變化すれば經濟思想も變化する

沖中 現在の世界的激變期におきまして、特に日本の激しい變化の裡に吾々が最も重大な關心を持つもの、一つは、今後、經濟學が如何に變化するかといふ問題であります。勿論これは日本だけの問題に限定して考へる事は出來ない。寧ろ經濟乃至經濟學の發展自體の問題として考へて行かねばならぬと思ひますが、差當り之を日本の經濟學といふ所に焦點をおいて問題を具體化し、漸次世界化して行く方が便利かと思ひ

ます。

元來、現在かういふ事が重大な關心になるといふのは、經濟の側に大きい急激な變化が起りつつある所から、經濟學の側にもそれに應じた變化が起らねばならぬのではないかといふ風に、經濟と經濟學との間の相互關係を意識的或は無意識的に豫定してゐるからだと思ひます。

そこで本論に入るに先立つて、經濟の變化と經濟思想の變化との關係が過去に於てどういふ風に現はれて來たかを考へて頂き度いと思ひます。最初に少し古く遡つて徳川時代の事に就て土屋さんに御話願ひます。

### 1 徳川中期と後期との二つの農業思想

**土屋** 徳川時代にも、生産様式なり生産關係なりの變化が起るに従つて經濟思想の變化が現はれて居ります。宮崎安貞と大藏永常との農業思想等はその一番著るしい例と言ふ事が出来るでせう。宮崎安貞はたしか元祿十年に「農業全書」といふのを出し

てをります。此人は徳川時代の初期から中期にかけての農業事情の上に立ち、且つ彼自身の永い經驗に基いて、五穀を初め色々な農作物の耕作技術を中心に述べてをります。商品生産のまだ充分浸透して居ない當時の經濟事情が之によく反映して居つて、農民の自給自足を目標とする生産方式、年貢としての穀物の耕作等が此書物の目標となつてゐる。勿論商品としての農作物に全然觸れて居ないといふ譯ではありませんが、中心はそこにおかれて居なかつた。

之に對して大藏永常となると立場が對蹠的に異つてをります。此人の思想は「交易國產考」に現れて居るのですが、商業が農村經濟にも浸み込んで行つた享和から文化・文政・天保更に其後の徳川後期の農村事情が非常によく反映して居る。彼は農民として出来るだけ早く利益を擧げ得るやうな作物に注目して、此様な種類のもを農家が栽培するやうに、又色々な副業をやつて收入を得るやうに盛んに奨勵して居るのです。

此様に徳川時代の經濟が、少くとも農村に於ては自給自足の様式を土臺にして居た

中期以前の經濟思想と、商業的農業が段々浸透して來た後期にかけての思想とは著るしく異つて居る。勿論その他の江戸時代の經濟思想家にも維新以後の經濟學者にも同様の事が言ひ得るのでありますが、その内でも今擧げた二人の思想のコントラストは特に面白い例だと思ひます。

## 2 明治初期のインフレ思想は今日のインフレ思想と同じではない

**土屋** 今のインフレーション對策論は御承知の通り大體計劃經濟で行かなければならぬといふやうな意見が殆んど支配的だと思ふが、進歩黨にしても或は自由黨にしても、大體社會黨のインフレ對策に近付いてゐると思ふ。これに對して西南役の後の明治十一年から十四年にかけてのインフレーションの解決策論は非常に違ふ。これは當時の經濟情勢と今日の經濟情勢との相違を全く端的に反映してゐると思ふ。當時のインフレーション對策論としては結局田口卯吉さんなどの意見が支配的だつたと思ふが、その意見を採用した澁澤さん或は松方さんなどの意見は所謂オーソドックス・ス

クルの立場で、結局健全通貨主義に立ち、兌換制度を確立するまで紙幣の整理をやる。同時に財政の緊縮を強行するといふ行き方でした。

當時のインフレーションの原因は不換紙幣が増發された結果ではなくして寧ろ銀貨の値が上つたのだといふ風に見てゐた、めに當を得た對策を實行することが出来なかつた。ところが今日のインフレーション對策は自由黨が自由經濟への復歸といふやうなことを前には唱へてゐたが、結局社會黨なんかのインフレ對策論に歩み寄つて來た。銀行の國有國營であるとか或は重要産業の國有國營、國家管理といふやうなもの、それから公債の支拂停止であるとか軍需補償の打切りであるとか、要するに社會主義的の對策に依らなければ今日のインフレーションは解決出来ないといふ結論になつてゐるわけで、同じインフレーションでも時代の異なるにつれて起り方も違ふと同時に對策も違つて來る。

**中山** 前のインフレ對策の時には、計劃的にインフレーションを喰止めて行くといふやうなことを強く積極的にやるといふよりも、寧ろその方策としては經濟がインフ

レ的に歪んで進行してゐるのを常道に戻せばいゝといふ考へで行はれたと思ふ。ところが今度の戦争後のインフレ対策としては世界のどの國の對策でも、何か經濟の常道に歸へるといふことでなくて——勿論窮極の目的はそこにあるのだが、それに對する手段の中に非常に積極的な面が現はれてゐる。それはやはり經濟自體に對する時代の感覺が違つてゐるためだと思ふんです。

**土屋** 今のお話の通りであつて、田口さんは日本としては最も純粹にオーソドックス・スクールの立場に立つてゐた人で、田口さんがやつてゐた東京經濟雜誌なんかでも早くからインフレ對策を論じてゐるが、結局兌換制度を確立するに至るまでに紙幣の整理をやつておかなければならんといふ點がその基本的の意見で、政府と對立して熾んに政府の意見を批判してゐた。

それについて尙一寸思出したので申し上げますが、松方さんの紙幣整理といふものが大體解決したのが明治十八年で兌換が開始されたのは十九年、かうして松方さんのデフレ政策によつて兎に角當時のインフレーションが解決された時に、澁澤さんを指導

者とする銀行集會所で松方さんを招待して祝賀の宴を開いたことがある。その時に澁澤さんが松方さんに對する感謝の演説の中で述べた一節を私は非常に面白いと思つてゐる。西南役の後にだんだんと通貨の減價が現はれて來て貨幣制度の常態が失はれるやうになつて來た。その時に眞つ先にこれを憂へた者は我々銀行業者であり、今、松方大藏卿の紙幣整理によつて貨幣制度が常態に復したのを天下に先んじて喜ぶ者はやはり我々銀行業者であるといふのです。これは銀行資本家としてオーソドックスの立場からの意見だらうと思ふ。

澁澤さんはインフレーションについて銀行集會所の前身である擇善會で早くからその對策を論議して政府に建議しようとした。然し大隈さんと意見が違つてその忌諱に觸れて果せなかつたが、この資本主義確立途上の澁澤さんの考へ方と、今日の銀行資本家のインフレに對する非常に戸迷ひしたといふか混迷に陥つた考へ方や態度とは好いコントラストをなしてゐるやうに思ふ。

**森田** 明治時代のインフレーションはどの程度の激しさだつたんですか。米の値段な

んかどの位騰りましたか。

八

**土屋** 米は大體倍になりました。他の物は必ずしも米價と同じ水準迄騰つてはるません。例へば鹽・油或は薪などについての當時の調べがあるが、それによると米價の水準迄は何れも達してゐない。それから賃銀も米價の水準に達してゐなかつたといふことは勿論であつて、諸物價に較べても低く、二、三割の騰貴に過ぎない、他の諸物價は大體七割程度、米價だけが十割の騰貴で斷然リードしてゐた。今日から見ればまるで問題にならない程度のインフレなんです、然し當時の國民經濟の規模からいへば非常に大きな問題だつたんです。

● **山田** それは金に對して紙幣の下落七割とか九割とかいふことになるんですか。

**土屋** 當時は御承知の通り名目上金本位の建前ではあつたがまだ實際上は銀貨本位ですから、洋銀——貿易銀といふものが國際通貨になつてゐた。それで金銀の間に相場があり、銀と紙幣、金と紙幣との間に相場があつたわけです。

**山田** その兩建であつたんでせうが、具體的には金なら一圓のものが、紙幣なら

一圓七十錢といふやうなことが一般的の現象ではなかつたんですか。

**土屋** さうでせう。

**黒澤** 私の家は明治十五年頃は茨城の郷里で寺小屋をやつてゐたが、當時は授業料は米で持つて來るのが多かつた。小さい村で今は戸數が二千戸位ありますが當時は五百戸位しかなかつたと思ひます。その村で從來五錢の米が十錢に騰り、しかも騰り方がひどく早かつたので、そのために村に三人も自殺者が出てえらい騒ぎをした。寺小屋の授業料はお金でなら五錢米なら一升だつたが、それが急に倍に騰つたので子供を退かせる家も出て來た。今から考へれば嘘みたいな話ですが、當時としては大變だつたんです。村には今でも大きな倉が澤山残つてゐますが當時の分限者は株の大變動の爲に倉を大概人手に渡した。さうして維新前からの村の素封家は皆轉落したのです。

**土屋** 然し轉落したのはその後のデフレーションになつてからでせう。インフレ過程に於いては、地主・自作農なんかは非常に好かつたがデフレに入つてから參つてしまつたのです。

九



## 3 然し明治初期には外國思想の單なる模倣が支配的であつた

沖中 明治初年にイギリスの所謂自由主義經濟學が輸入されたのは、日本の資本主義經濟自體の要求に基くものではなくて、謂はゞ外來思想を思想として單純に受け入れた、つまり外來思想の模倣といふことにならないでせうか。

土屋 經濟の變化と思想の變化との關係については、日本の資本主義が畸形的に發達して行つた、めに兩者の聯關が英國などの場合と較べると餘りはつきりとした形で現はれてゐないといふことも考慮にいれておく必要があらうと思ふ。

まだ日本の資本主義の確立されなかつた時分に、福澤さんあたりがオーソドックス・スクールの經濟思想を紹介してゐるし、田口さんなんかもこれを輸入し普及するのに大きな役割を果してゐます。之は單に經濟思想の方面だけではなく、西洋の民主主義や自由主義が單なる模倣のやうな形で輸入されて居ます。

然し他方ではそれと雁行して若山儀一とか犬養さんなどがリストとかケリーなんか

を紹介して保護貿易思想を普及しようとして居る。之は明治初年から既に條約改正といふ問題があつたので之と結びついて居るものと考へられます。然し大體明治初年頃の日本の經濟思想は、日本の經濟の段階から寧ろ遊離した自由主義が支配的であつた。かういふ點から、當時の經濟思想は唯思想としての模倣であるといふ色彩が濃厚だと言へるでせう。

大河内 今の問題ですが、この點はどうでせうか。例へば自由主義經濟學が輸入されたといふことについて、私の考へでは何とはなしに本家の理論が輸入されないで、亞流のセーとかバジョットの非常に通俗化した自由放任論が、極めて通俗的な形で輸入されたのではないかと思ふ。例へばスマイスなどが實際は非常に力を入れた十八世紀後半の英國の經濟的な階級分析、或は所得の分析といふやうな問題は餘り意識もされなかつたし、さういふ點の理論的成果といふものは殆ど日本では問題にならずに看過された。つまり形骸だけが攝取された。

リストにしても條約改正の狙ひを以つて一種の對外的な關稅自主權の獲得とか或は

保護貿易政策の基調を据ゑるとかいふやうな點だけが輸入されて、實際四十年代の獨逸でリストが持つてゐたもう一つの面、つまり獨逸國內のマーケットを資本主義として形成する意味での競争といふ本當の意味の自由主義、その面のリストは日本では殆ど紹介も輸入もされてゐない。悪くいへば昔の官僚軍閥政治といふものに一つの理論的基調を與へるかの如きその側面だけがずつと引抜かれて輸入され紹介されたといふ感じがするんですが、いづれにしても本當の精神が輸入されてをらなかつた。

さういふことは偶々翻譯した者や輸入した者の頭の悪さといふことでなしに、日本の輸入したもののものが歪んだものだったので本家のよいものが輸入出来なかつたのではないでせうか。

**土屋** その點確かに大河内さんのいはれる通りです。福澤さんの輸入した經濟學はメイトランド、ペリー、フォーセット等で、官版ペリー等も譯出されてゐる。スミスの國富論も直接全譯されたのはずつと後のことです。リストにしても今のお話の通りです。

**高橋** 何れにしても非常にプラグマティックな態度で輸入したやうな気がする。いま大河内さんのいはれたやうにそれぞれの經濟學の本國の背景事情といふものが無視されると同時に、學問としての方向が全然無視されて自由主義、保護主義といふやうな形だけが入つて來た感があるんです。

**土屋** しかし完全にさうとばかり言ひきれない點もある。勿論、スミス經濟學の本質やその發生地盤といったやうなことが經濟學說として充分に研究されてはゐなかつたが、一部の者、例へば井上さんとか澁澤さんなどはペリーを勉強した上で健全財政主義、健全通貨主義に立脚した國立銀行條例を作つてゐる。

彼等はこの條例に基いて、その時までに行なわれた政府の不換紙幣を整理するのだといつてゐるが、兎に角俗流とはいへオーソドックス・スクールの立場に立つてゐたことは事實で、由利やなんかの經濟思想に比較すれば、一應科學的な根據を持つてゐたといへませう。

#### 4 第二次大戦の經濟的變化は計畫經濟思想を支配的にした

森田 話が前に戻りますが、經濟を常道に戻すだけではインフレは解決されない。この事は今日多くの國が認めてゐる。然し常道に戻すといふやうなやり方でインフレーションを解決するといふ、例へばアメリカあたりの行き方は結局その國民經濟の環境とか條件とかの違いであつてそれ以外のものではない。そこで一番初めに提起された歴史的條件と經濟學との關係は、經濟學の内容が科學的でなければならぬ限り、結局今日資本主義の經濟學を採るべきか、或は社會主義の經濟學を採るべきかといふことになるんぢやないですか。

中山 いま提出された問題は二つに分けられると思ふ。一つは常道といふことの意味如何、もう一つは經濟の中味が變つた場合の經濟學が資本主義經濟學か社會主義經濟學かといふ問題だ。後の方の問題は山田さん當りで大いに論じて頂き度い。前の問題は私の言葉が足りなかつたので補足しますが、常道に歸へるといふ意味は自由な經濟の自然法則に従つて問題を解決するといふことです。勿論今次大戦後の世界各國のインフレ對策も大きな立場でいへば經濟の法則に従つて解決して行かなければならぬ

い。その意味では經濟の常道に復するんだが、唯その場合に經濟の動きを自然的な自由經濟に任せて置くか置かんかで非常に違ふ。

例へばアメリカの場合は自由資本主義の立場でインフレーションを解決しようとしてゐるといふが、然しそのアメリカの經濟に對する見方はニューディールの施行以來だんだん計畫的事態に入つて行き、必ずしも自由經濟の形で解決しようとしてゐるのではない。その意味で單なる常道的な解決ではなく計畫經濟的な意味が入つてゐます。

山田 森田さんと同じ疑問で、別の觀點からかういふ風にも考へられる。前歐洲大戦後の經濟回復期の問題でも、中山さんは常道に歸へるといふこと一色で塗り潰されてゐるやうに言はれたが、よく考へて見ると二つの流れがあつたと思ふ。自由經濟に戻るといふ意味で常道に歸へるやり方があり、獨逸やロシヤではもつと計畫經濟の要素を入れて回復しようといふ要求があつたと思ふ。さういふやうにこの前もやはり國の事情によつて解決の仕方に二つの方法があつたんぢやないですか。

森田 しかしそれは一應常道に歸へらうと思つて努力して見たが、それが出来なくて計畫的な方へ變はらざるを得なかつたんぢやないか。例へばロシアの場合でも常道復歸の努力はあつたんぢやないですか。

山田 獨逸の場合は寧ろ逆で、一應民主黨が政權を握つて計畫的な經濟をやつて見たけれども、結局自由經濟へ戻らざるを得なかつた。要するに自由經濟か計畫經濟かといふことは、既に前大戰後問題化し、一九二九年の恐慌で更に推し進められて、最近次第に強まつて來た。

中山 正確にいへばさうでせう。然しソ聯の場合は特殊な例として除くとして、全體の傾向として見れば、それはやはり昔の自由經濟の常道に戻ることにあつたと考へていふと思ふ。つまり一九一三年の經濟状態に復歸するといふのが目標であつた。然し今度は目標となるべき年度がない。さういふ意味で全體の傾向としては歸るべき常道的、經驗的な年度を持たないといふことが一つの特徴だと思ふ。その上にソ聯の計畫經濟の大きな成功といふものがある。これらの事實から計畫經濟に對する重要性は

著るしく大きくなつた。前大戰の獨逸の場合は、既に戰爭中に例のヒンデンブルグ工場を計畫的に運営して行くといふ大きな經驗を持つてゐたので、それが平和經濟の場合にも適用されて、獨逸社會民主黨邊りの經驗的實證的政策の基礎になつた。

このやうな例はあるにしても、全體として見ればやはり自由經濟への復歸が世界的の傾向であつたと思ふ。

土屋 西南役後のインフレーションの解決策は嚴密にいへば常道に歸へるといふよりも寧ろ常道へ進んで行つたんです。オースドックス・スクールの理論に立つて常道へ進んで行くといふ段階にあつたと思ふ。

今日のインフレ問題については、日本の經濟の根本の機構といふものは勿論未だ社會主義的の體制に進んでゐる譯ではないから、勿論いろいろ修正された形ではあつても、西南役後のインフレ対策と似通つた手段が或程度適用され得ると思ふ。緊縮財政、不換紙幣整理といふことはやはり今日でも必要でせう。唯しかし、今日の經濟の段階は少年期であつた當時に對しいはゞ老年期に入つてゐるのであるから、單なる常

道復歸では解決され得ないといふのが、いろいろな議論が出て来る理由ではないかと思ふ。

中山 その點は結局かういふ事になるんぢやないでせうか。

前大戰の時の戦後經營の一番大きい立場は、やはり自由經濟といふやうな立場で、大體一九一三年程度の若干の安定を目標にして經濟の恢復を計らうとして居る。通貨の方でもやはり金本位制度の恢復を目標にした。計畫統制にしても別に新しいことをやらうといふのではなく、兎に角戦前の程度の安定を収戻することがその中心になつてゐた。

ところが今度の大戰の一番大きな特色は戰爭をやつてゐる間に經濟上の大きい變化が起つたといふ事だ。例へば勞働の地位の進出、それは前大戰の場合もさうですが、今度の場合には御承知のやうにビヅァリッチが一九四三年には既に社會保險法案を出して勞働の權利といふやうなものを事實上確立して行くといふ方向をとつた處にも現はれて居る様に特に著るしい進歩があつた。生産にしても消費にしても國民經濟全體

を計畫化して經濟問題を處理して行かねばならない。さういふ變化が戰爭中の計畫統制と結びついて戦後にも強くその影響を残したと見ていゝと思ひます。

つまり戦後に於ける計畫經濟といふのが、その最も端的な表現と見ていゝでせう。第二次大戰後の經濟對策の目標は唯戦前の安定期への復歸といふのではなく、もつとさきの事を考へて、初めから計畫的にやつて行かうといふのが特色です。この特色がいろいろの形で經濟の現實問題に現はれて来る。

一例を申しますと戦後復興に必要な時間が一體どの位かゝるか、かういふ問題になると前の戰爭の時には統計的にもはつきりしてゐる様に大體十年かゝつた。獨逸にせよ英國にせよフランスにせよ、戰爭で相當に被害を受けた國の生産が戦前の水準に歸するには大體十年かゝつてゐる。ところが今度のもつと意識的計畫的にやつて行けば或は十年もかけないで濟むのぢやないか。戰爭の及ぼした影響といふ點から言へば勿論今度の方がズット大きい。はつきりは分らぬが大體今推定されてゐるところでは、戦費の點では前大戰の四倍ぐらゐると言はれて居る。然し恢復或は復興の速度は、經濟に

對する見方の變化、即ち計畫經濟化する事によつて非常に違つて来る。

二〇

## B 科學としての經濟學は變化するか

### 1 經經學の内容・形態は變るが本質は變らない

沖中 今迄の御話によつて、經濟が變つて行けば經濟思想の方も亦それに伴つて變つて行くといふ關係が明かにされました。そこで現在から將來に向つての、日本の經濟は申す迄もなく、世界經濟の激しい轉換に於いて、經濟學がどう變つて行くかを問題にしたいのです。勿論經濟學の變化と言つても、その本質の變化もあり、方法論の變化もあり、又内容の變化の意味もありませう。然し先づ順序として、經濟學の本質、科學としての經濟學は今後變つて行くものか何うかについて進めて頂きます。

中山 經濟學といふものは根本的には實證的の科學で、その歴史からいつても性質からいつても實際の問題が反映する。従つて事實上の變化が經濟學の上に反映して、

それが今後の經濟學の性格を決める一つの因子になる。

例へば計畫經濟の理論といふやうなものが今迄は一つの理論的な可能性といふやうな面だけで問題になつてゐたんですが、可能性も可能性だが事實の方でそれが進行する場合、それを經濟學としてどう受け容れるかといふことが一つの問題になつて來るでせう。

もう一つ具體的に現はれて來る大きな變化は、統計的の數字を經濟學の理論の中に攝取する仕事に相當進んで來てゐる。マーシャルが質的經濟學から量的經濟學への變化を宣言したのは一八九七年、今から五十年前の話ですが、その後の経過はマーシャルの豫言にも拘はらず猶質的の經濟理論の研究と量的の研究とがまだ必ずしもしつくり行つてゐない。しかし經濟の一般的な計畫化といふ問題が正面に出て來ると、やはりその基礎として統計が非常に重要になつて來る。従つて統計をいかに理論と結びつけるかといふやうなことが問題になる。今述べたのは二つの内容的な變化の例ですが、さういふものが中心になつて新しい經濟學の形態が出來てくると思ひます。

たゞ経済學自體が科學としてどういふ變化をするかといふことは、これは問題だと思ふ。といふのはやはり學問としての經濟學は現象の變化に對して理論的統一的な説明原理を興へるといふ點にある。かういふ學問としての客觀的性格がこれによつてまゝるつきり變つたものになるといふやうな變化はないのぢやないか。その意味では今まで二百年の歴史を持つてゐる經濟學の傳統に照してもいひ得ることゝ思ひます。

沖中　今の御話によれば事實が變化するに従つて經濟學の内容と形態とは變化するが、科學としての經濟學の客觀的性格は變化しないといふ事になる。さうすると具體的に厚生經濟學等に於いての厚生概念を例にとつて見れば、從來の厚生は個人的立場から考へられてゐたが、今度は社會的、團體的立場に於ける厚生が問題になつて來る。さうすると從來の經濟學が形成して來たアトミスティックな理論が現實を説明する武器としてどこ迄耐へ得るかゞ問題となるのではないですか。理論經濟學がかうして段々現實から離れるといふ事になれば、經濟學も亦本質的な變化を遂げねばならぬといふ事になりはしないでせうか。

中山　從來の經濟學はアトミスティックな立場の上に形成されて來たが、統制經濟なり計畫經濟なりが經濟の明かな動きとして前面に現はれて來るに従つてマクロダイナミックな立場が經濟學に採り入れられるやうになつて來た。このやうにマクロダイナミックな立場から分析するやうになつたとしても、その事は直ちにアトミスティックなミクロダイナミックな立場を否定するものではない。これら二つの立場を對立させないで、寧ろそれらを綜合して行かうといふのが今日の大體の傾向ぢやないでせうか。又僕はそれが大體に於いて正しい方向だと思つて居ります。

高橋　さつきのお話の好い例はケインズでせう。『一般理論』とその前に書いたものとを比較すると非常に大きな變化があると思ふ。いまの日本の場合では失業といふことも勿論大きい問題だし、また食糧が足りない、生産が足りないといふことも大きい問題だが、その他に何か變つたものがあるといふ感じがする。

山田　中山さんは、さういふ場合には、經濟學の性格が變はるといふんですか。それとも、經濟學の方向といふか、性質といふか、それ自體としては變らないといふ

のですか。例へばいまのケインズの理論なんかはどういふ風に解釋したらいゝんでせうか。

中山 經濟學の内容が變はると言ふ意味です。先程出された問題は、科學としての經濟學は變ることがあるかといふのですが、この科學としての經濟學が變るといふこととはない。變化があるのは内容についてであつて、ポジティブ・サイエンスとしての經濟學がノルマティブ・サイエンスになるやうなことはないと思ふ。だからさういふ意味の、例へば經濟學の倫理化といふやうな變化は私には考へられない。

## 2 計畫經濟と結びついて統計的研究が進歩し經濟學の内容を豊富にする

沖中 今中山さんの御話では第一に、自由主義を基調にした經濟が計畫經濟に移つて行つても社會主義化されて行つても、經濟學の本質そのものには變化はない。然し第二には、現實の計畫經濟に促されて發展して來る計畫經濟の理論を、從來の經濟學が何う受入れるか。更に統計學的實證研究の進歩によつて量的經濟學としてどれだけ

内容を豊富にするか、等によつて經濟學の内容なり形態なりには大きい變化があるだらう。かういふ事でしたが、此内第一の問題は後でいろいろの立場から、立入つて詳しく御話を願ひ度いと思ひます。此所では一先づ第二の問題の内、統計學的研究と經濟學との關係に限定して御話を伺ひたいと思ひます。

高橋 コーリン・クラークは理論的研究と科學的(實證的)研究とを區別して、特に後者の研究の重要性を強調して居ます。作り上げられた理論なり思想なりを數字的にテストすると實際どんな結果が現はれて來るか。さういふ科學的研究が必要だといふんです。日本等の場合は、さういふ機關がないので困るが、今後はさういふ仕事が必要になつて來ると思ひます。

森田 その點アメリカのやり方は非常に大膽で、徹底的です。日本では相手にされないやうな方法で極めて大膽にやる。勿論之はアメリカ許りではなく、イギリスにも、例へば租税と生産との關係に就て非常に込み入つた統計的研究をやつて報告が出されて居るのもあります。



最近アメリカから来て居る人達の話を知ると、戦争中に統計的研究方法が非常に進歩したらしい。特にスモール・サンプルの理論が進歩して経済現象の研究に應用されて居る。大體此方法は自然科学の方面に主として使はれて居たもので、セイゼイ生産管理等に用ひられて居たに過ぎないのですが、今は一般經濟問題にも應用されるやうになつた。例へば貸銀問題等についても小さい見本をとつてテストして見るといつた工合です。さき程申上げた租税と生産の關係の研究の様なものも此方法によつたもので、スモール・サンプルの理論の應用された極く初めてのものではないかと思ひます。とに角アメリカでは大膽にさうした方向に出發して戦争中も著るしい進歩を遂げましたし、現實に貢献もして來たらしい。稍古い所ではミツチエルの景氣變動に就ての研究にしても、あの當時から非常に大膽にやつて而もそれが實際上にも大きい効果を擧げてゐます。

これはかうした大膽な研究を許すといふ社會的雰圍氣からだと思ひます。此點日本は相當缺けて居るんぢやないでせうか。

**山田** その様に統計的研究が重視されるやうになつたのは計畫經濟の要求と密接な關係があるんぢやないか。ソ聯は言ふ迄もなく、アメリカ、スエーデン、イギリスなんかでも最近理論とくつついた統計的業績を大分示して居りますが、これもかなり計畫的要素の強くなつたといふ事に關係があるのではないでせうか。

**中山** 私もその關係が基本的な問題だと思ふ。

經濟學があつて、そこへ統計的研究が入つて來た一番畫期的な時期は第一次世界戦争の後です。さき程森田さんの言はれたミツチエルの研究の出たのが一九一四年で、その他景氣變動の統計的研究を經濟學に結付けて行くといふ立場で景氣研究所の出來たのが一九二〇年から二五年頃、ドイツでワデーマンのベルリン景氣研究所の出來たのも二五年です。三菱の經濟研究所が出來たのは大正八年ですから、一九二三年といふ事になる。

だから當時の此様な統計的研究は戦後の一つの實證的な計畫的要求と結付いてゐると考へることが出来る。かういふ風に第一次大戰の後から第二次大戰の始る前に、さ

ういふものが既に出て居たにも拘らず、ミクロダイナミックな質的の經濟が或程度まで獨立して動いてゐるやうに見られて居た。處が今度はさういふ譯には行かない。もつとマクロダイナミックな研究に進まねばならぬやうな地盤が一應出來上つたと言へるでせう。マーシャルが五十年後に豫見したものが實現されるわけで、之が經濟學の上には相當大きい變化を與へるに違ひないと思ひます。

## II 資本主義は將來どうなるか

### ——計畫經濟か社會主義經濟か——

#### 1 完全雇傭の問題は資本主義の枠内で解決され得るか

沖中 今迄の御話によつて、經濟の變化に伴つて經濟思想も亦變化して行くといふ事が明かにされました。そこで將來の經濟學がどうなるかといふ問題を考へるには、日本なり或ひはもつと廣く世界の資本主義が今後どうなるかを考へる必要がある。何れの國も解決を迫る大きい問題が澤山ありますが、これらの問題を考へて行けば直ちに資本主義の將來といふ問題にぶつかるわけです。そこで此處では失業乃至完全雇傭の問題をとりあげて、資本主義の將來といふ問題に迫つて見たいと思ひます。

中山 ビヴァリッチがその近著でイギリスの直面してゐる雇傭問題に關聯して述べ

てゐますが、その要旨を述べて見ると提出された問題に入る緒口になると思ふ。

そこにとりあげてゐる問題自體が、結局資本主義・社會主義の問題に觸れなければならぬ問題である。それにも拘はらずビヴァリッチは、自分はこの問題には正面からタッチしない、又タッチする必要はないといつてゐる。なせかといふと、これから社會のいろいろの要求に従つて社會主義的になつて行かうと、資本主義體制がその儘續かうと、どちらにしてもフルエンプロイメントの爲には自分のこゝで提案することゝは必ず行はねなければならない。その意味で直接に資本主義・社會主義といふ問題に立ち入ることなしに、この問題を提起することが出来る、かういふ態度をとつてゐるんです。

フルエンプロイメントの問題は現在のイギリスにとつて達成しなければならぬ一つの最も高い目標であり、そのためにはビヴァリッチの考へた失業の原因から見ると、どうしても國家が強大な力を使つて失業對策を立てねばならぬ。完全雇傭を實現する爲には、社會の生産がいつでもフルエンプロイメントを確保し得るやうな體制に落着

き得るだけの國家支出をする必要があるからだ。

といふのは失業の最大原因はケインズ分析によつて明瞭になつてゐるやうに、結局は需要の不足である。ところがフルエンプロイメントを確保し得るやうな有效需要を何時でも創り出すことが出来るのは國家を除いてはない。だから國家は財政に對する従來の考へ方を改めて、必要な限りの資金は公債とか租税とかの手段によつて調達してこれを支出して行かねばならぬ。このやうなことの出来るのは今日のやうに大きい失業の危険が控へてゐる際は國家以外にはない。これが第一の理由である。

第二は労働の移動性の問題、或ひは労働市場の組織化といふやうな問題である。現在の體制の下で労働市場の問題を充分に調整するには、結局労働組合を中心に労働側との完全な諒解がなければならない。又、労働組合からの生活程度引上げの要求を全體的に統制して、個別的のバラバラの運動でなく、圓滑に展開する途を開き得るのはやはり國家だけだ。又、そのやうな問題に對して資本の側の協力を求めて行くと共に資本の側に必要な調整を加へて行くといふことが出来るのも、やはり國家の外にはな

い。だからフルエンプロイメントの目的達成の爲には、どうしても従來の自由經濟體制に國家の強大な力を導入して來なくてはならない。

これだけのことは資本主義のイギリスであらうと或ひは何れの社會主義的國であらうと、問題なしに要求されるであらう。しかしその結果は經濟體制といふものを、いままでの資本主義體制とは著るしく異つたものに變へて行くであらう。だからいつてどうしても社會主義にならざるを得ないかといふと、自分はさうは思はないといつてゐる。

こゝで一番重要な問題は需要の社會化といふことで、生産の社會化ではない。需要の社會化だけでフルエンプロイメントを確保し得るといふことは、既に今次大戰中に於いてわれわれの經驗したところである。そこではデマンドの社會化及びこれに對應する勞働の調整といふものも相當強力に行はれた。しかし生産の全體は必ずしも社會化する必要がなかつた。このやうな經驗からしても又イギリスのいまの經濟體制からしても、自分は必ずしも生産の社會化、換言すれば生産手段の國有といふやうな社會

主義本來の主張をとり入れなくても問題は理解出來ると思ふ。

しかしこれは一つの考へ方で、實際にやつてみた場合に果してそれでやれるかどうかは分らない。生産の社會化の問題は謂はゞ次の曲り角の問題である。我々はまだその曲り角までは行つてゐない。そこで取敢へずその曲り角まで行くのが現在のイギリスの問題であり、その次にどういふ景色が展開されるかといふことは次の段階に譲つていゝ問題だと思ふ。

しかしこの需要の社會化を中心とした失業對策についてさへも、既に生産の社會化なしにはその目的が達せられないだらう。従つて經濟の全般的計畫化即ち社會主義化が必要になるだらうといふ議論も起り得る。しかし現在のところそのやうな計畫化の議論の中にはイギリスがあくまでフルエンプロイメントよりも更に大切なものとして護らうとしてゐる自由<sup>フリー</sup>に對する大きな拘束が含まれてゐる。従つて我々はそのやうな自由の拘束を含む計畫に同意することは出來ない。自由に對する慾求を捨て、しまへば完全雇傭といふやうな理想には極めて簡單容易に到達することが出来る。しかしイ

ギリスにとつての問題はまさにその自由を確保した上での完全雇傭の達成といふ問題なのである。

この様な解決の仕方は今まで述べたところだけでも既に社會主義的であるといはれるかも知れないし、又逆に本質的には何等資本主義の枠を出てはゐないといふ批評もあるだらう。しかし凡そ社會主義か資本主義かといふやうな問題は、フルエンプロイメントの問題だけから取上げられるものではなく、外に澤山の論點を含んでゐるのであるが我々はそれらには立入る必要がない。しかし何れの立場を取らうともこれだけは必要だといふことを述べたに過ぎないのである。従つてその意味に於ては資本主義か社會主義かの問題を回避しながらしかも失業といふ大きい問題の解決を提議することが出来る。かういふのが大體ビヴァリッチの述べてゐるところなんです。

これは一面からいふと、ビヴァリッチが社會主義か資本主義かといふ現在の經濟にとつて基本的な問題に對立する態度を避けながら謂はゞ技術的といつたやうな範圍の中で問題を考へることに満足してゐるとも見える。しかし他面にはさうした結論にも

拘らず資本主義か社會主義かといふ問題を加へて行かなければならないといふことは、このやうな基本的な問題に關聯することなしには、失業問題が解けないといふことを示してゐるやうにも思へる。

ビヴァリッチは自由社會といふ限定の内にフル・エンプロイメントを考へて行かうとするところから自分の問題を非常に苦しいものにしてゐるといふやうな印象を受けるのであるが、しかし恐らくは今後の日本についても同じやうな問題が同じやうな形で提出され論議されなくてはならないだらう。

## 2 當然資本主義か社會主義かの問題になるのではないか

山田 今の中山さんのお話でビグーの「社會主義對資本主義」といふ書物を思ひ出したのですが、あの中でビグーはかういふことを言つてゐます。失業救済の問題は資本主義經濟、社會主義經濟の何れにとつても同様に必要だ。唯資本主義を基調とする場合には經濟變動を認め、それに伴つて起る失業を後から國家が負擔する。ところが

社會主義體制の場合には初めから經濟變動を抑へ、これによつて失業の發生自體を抑へる。このところに二つの體制の相違がある。

つまり社會主義體制を取つた場合には初めから經濟變動を抑へるのだから、經濟變動に伴ふ利益といふやうなものが多分に犠牲にされるんぢやないか。そこで經濟變動の利益を認めながら、そこに生じて來る失業の損失を國家が負擔するか、或は社會主義的に變動そのものを先に抑へて、その代り景氣變動に伴ふ利益を犠牲にするか。これだけの違ひが二つの考へ方にあるといふのです。これに對してビヅアリッチが自由を犠牲にしたくないといつたことについて考へてみると、それは經濟變動に伴ふ利益といふか、生産が活潑に動いて行くといふやうな利益を意味してゐるんぢやないかと思はれる。そこで社會主義を理想とする側からいへばその場合の自由とか經濟變動に伴ふ利益とかいふものは一つの階級の問題である。一つの階級に於けるフル・エンプロイメントといふ利益である。このやうに解釋し得るとすれば、こゝでも亦依然として資本主義か社會主義かといふ問題が考へられるんぢやないかと思ひますが、その點は

どうでせうか。

**中山** ビヅアリッチの場合には、形の上ではもう少し社會主義に近付いてゐるやうに思ふ。この點は需要を國家の支出によつて調整して行くといふ彼の案に對して、今までの資本主義經濟の中で考へられた各種失業對策を擧げて批評してゐるところに現はれてゐる。

その一つとして私人の投資の調整を擧げてゐる。例へば不景氣の場合には利子を引下げて行くとか、或は補助金をやるとか、租税を免除するといつた方法がある。これは飽くまでも景氣變動の對策である。しかし景氣變動の對策としての失業對策といふのでは我々はもう満足しない。といふのは好景氣の一番頂點に於ても失業率は相當に高くてフル・エンプロイメントの理想から遠かつた。のみならずブームの最頂點を延長してその儘持續することはこのやうな投資の獎勵策では期待し得ない。ブームはいつても前の不況を受けてその反動として起つて來る。従つてその反動として起つて來るものを常態として續けることは出來ないからである。

そこで彼にしてみれば、景氣の山と谷との平均の線、それを彼はスライト・デフレーションと名付けてゐるが、結局長い目でみればこの程度にしか不況を克服し得ぬとすれば、社會は永久に失業を負擔して行かねばならぬ。これに對して國家の支出によつていつまでも有效需要を確保するやうな政策は失業をミニマムに減少せしめることを初めから理想としてゐる。従つて單なる景氣對策的な失業克服策ではないといふことを以て反駁してゐる。

この點から察するとビグーの所謂景氣變動に伴ふ利益といふやうなものは寧ろ棄てた方が宜しいといふのがビグアリッチの考へである。唯さういふものを棄てた場合に尙ほ残る自由といふのは一體何かといふことが次の問題になるが、ビグアリッチのいふ自由といふのは、極めて根本的な人間の權利としての自由で、景氣變動といふやうな從來の經濟體制に現はれたものをそのまゝ取つて來て、これを自由といつてゐるやうにも見えない。寧ろ形の上ではビグーよりも一步進んで社會主義に近付いてゐる。しかし、飽くまで人間の自由——市民シチイゼンの自由は確保するといつてゐる。この市民

の自由を確保するといふ意味に於ては少くとも雇傭問題について行はれた全體主義的な解決又は計畫經濟的の解決——ソ聯とナチスを問題にしてゐるんですが——この二つの行方では絶対に解決出來ない。かういふ風に言つて居ります。

それではここにいふ自由の内容は何かといふことになるが、彼は例へば信教の自由、言論の自由、出版集會の自由といふやうな基本的な自由から始めて、經濟的の自由としては、資本を利潤追求のために使ふ自由、更に職業選擇の自由並びに消費の自由を列擧してゐます。

山田 その利潤の追求といふことがやはり問題になるでせう。

中山 問題にはなるが、その場合に利潤の追求の自由といつても、かういふことをいつて居ります。現在の利潤追求の手段になつてゐる生産手段、その中土地だけを除いて考へるとその生産手段を所有してゐるグループは極めて少數である。この少數の者はあつてもなくつても大した違ひはない。さういふ極論を或る部分でやつて居ります。それが假りに國有になつてもそれによつて影響を受けるところは極めて少ないと

いふんです。

山田　その點はどう判断してよいか一寸分りませんが、失業といふ問題について二つの考へ方がある。一つは労働権、労働する権利があるんだ。だから失業するのは不都合だといふので、フルエンプロイメントを考へる考へ方と、さういふ労働権といふ見地から出發するのではなく、やはり利潤追求から考へて行くのがよいかやないか。唯この場合にはそれからいろいろな弊害が附隨して起るがそれはあとから國家が負擔する。各個人が負擔することは出来ないから國家が負擔して行く。かういふ見方があるが、果してこのどつちがよいか問題です。

中山　その見方についてはビヅァリッチは完全に第一の形を取つてゐる。つまり労働権といふことは餘り正面からはいいはないが、フルエンプロイメントを確保することは國家の義務だ。初めからかういふ立場で行くんです。

さういふ問題を出した要點といふのは、僕の考へてゐるのはかうなんです。さういふのをビヅァリッチはロングタームプランといつてをりますが、やり方自體は私營企業  
業の自由が残されてゐるが同時に國家の投資分はだんだん殖えて行く。公有企業  
の範圍も擴張されて来る。それから労働組合の運動についても、國家との間に或る調整が  
行はれて行くだらうし、その労働組合運動、特に賃銀運動といふやうなものもフル  
エンプロイメントと兩立するやうに持つて行くためには、國家は相當嚴密且つ強力な  
價格統制をやらなければならん。さうするとやつてゐること自體は非常に計畫化して  
来る。

かうして經濟全體がさういふロングタームプランで動いて行く場合に、それが資本主義の體制といへるかどうかといふ問題です。もう一つ言ひ換へると經濟の實體はどうしてもいろいろの必要から計畫化されて行く。しかも永い眼で見た計畫で以て動いて行かなければならぬやうになるのが現實であるにも拘らず、なせ一體社會主義といふ言葉を避けたい、若くは避けようとする意圖をもつかといふ問題です。

沖中　その考へ方は、現在の資本主義經濟の内で、資本主義的原則を侵さない範圍内で失業問題を處理する、例へば國力によつて解決するといふのですから社會主義で



はないと思はれますが、さうすると失業が資本主義に結付いて考へられる限り此解決の仕方には限度があるといふ事になるのではないでせうか。

**中山** それは結局何が國家の力を借りる一番重要なポイントかといふ問題になるわけだ。ビヴァリッチの今度の書物は前に出た書物とは違つて失業の一番大きい原因は生産物に對する有効需要の不足だといつてゐる。この有効需要の不足が失業の一番大きな原因であるならば、その限りに於ては國家の力に限度はない。といふのは有効需要といふものは、いつでも完全に失業をなくすることが出来るだけ、國家の力によつて大きくして行くことが出来るからです。

一番大きな例は戦時中の例です。戦時中はどこの國もフルエンプロイメント状態であつたが、その一番大きい原因は國家の無限の需要があつたからでせう。だからその目的を平和目的に置き替へて、しかも尙ほ國家が無限にさういふ需要力を發揮するならば、その問題は一應解けるといはなければならぬと思ふ。

勿論此場合既に自由の原理は制約されて居るとしても、それは戦争の特殊目的から

出てゐる。平和經濟ではその自由の根本権はそれを保留しながら、尙ほ且つ需要を、特に國家の需要を少くともフルエンプロイメントを可能ならしめる程度まで、上げて行くことが出来るだらうといふんです。勿論極度に大きな需要不足をカバーしなければならぬといふなら問題です。

然しビヴァリッチの分析によると大體イギリスのいままでの國民所得は、一九三八年の物價水準で測ると五十億乃至六十億磅位と考へてゐるが、それに對してその當時の失業を吸収し得るだけの支出の増加、即ち國家によつて操縦される需要は——別に國家でなくてもよいが——大體五億磅あれば宜しい。五億磅あれば、恰度その所得を生み出す。即ちエンプロイメントが加はることによつて、失業のミニマムになる状態を現出することが出来る。つまり恰度五億磅に當るだけの需要不足があつた爲にそれだけの失業があつた。だから逆にいふと五億磅の所得増加をなし得るやうな、さういふ支出を國家がやればそれによつて雇傭がフルになり得るだらう。かういふ考へ方なんです。

**沖中** さうするとかういふ事になりますか。イギリスでは五億磅の支出を國家が附け加へれば失業はなくなる。つまりイギリスの富の蓄積状態と失業状態とを較べて見れば、これだけの支出を國家がやれば問題が解決出来る。その場合企業の自由の如きも原則として否定する必要がない。これはアメリカの様に資本主義の高度に發達した所でも同じやうに言へるでせう。處が富の蓄積のもつと遙かに低い國、例へば日本とか支那とかいふ事になると、投資總額に對する國家の投資の割合が比較にならぬ程大きくならねばならん。その結果は、企業の自由の制限される領域がズット大きくなつて行くといふ事になつて、結局は資本主義原則の否定といふやうな所迄行かねばならぬといふ事になるのではないですか。

**中山** その問題はビヅァリッチのあの書物の中に、先程一寸觸れたやうに資本の方にも國家の干渉が相當加はつて行かなければならん。その方は主に租税とか、それからその他に需要の方向を全體の社會の必要などところに向けて行くといふやうなやり方でやつて行く。それは決して企業の自由を根本的に奪ふわけではなく、その範圍内に

於ては依然として嘗つての資本主義と同じやうに自由主義的企業が必要だといつてゐる。しかしその範圍は嘗つての如何なる時代に於てよりも狭くなつてゐることは事實だ。さう考へて行くと、それがうんと狭くなつた極限を考へれば、それは社會主義ではないかといふ者もある。しかしさういふことは曲角を曲つてからの話にしてくれ。かういふことになるんです。

**山田** ですから資本主義といつても非常に計畫經濟化された資本主義といふものを描いて行くわけですね。それで我々の頭の中にはそれと社會主義といふものを基調にした計畫經濟といふものとこの二つがあるわけです。やはりイギリスだから、或はアメリカだからといふことで、一應は片付くかも知れないが、やはりそれにはイギリスなりアメリカなりに於ても限度があるんだ、かういふことになるんぢやないかと思ひます。しかし英米等の場合は資本主義化された經濟の枠内で、フルエンプロイメントに關する限りは少くとも一應は解決が出来るといふわけですね。

### 3 需要の原理と生産力の原理

——二つの原理と生産力との關係——

四六

中山 資本主義の枠の中で失業問題を完全に解決するといふ事は歴史的には立證されて居ないので、その點はビヴァリッチも認めてゐる。これは嘗て一遍もやられたことがないといふ意味に於てアドヴェンチュアだ。それからかういふことが國家の力で出来るか出来ないか見透しが付かないといふ點でもアドヴェンチュアだ。併しこれは解決しなければ全滅するかも知れないといふ意味で、どうしても我々がやつて見なければならぬ冒險だ。それに對する信念を持つことが必要だといふことをビヴァリッチは繰返して述べてゐる。

沖中 この失業問題乃至完全雇傭の問題を中心として考へますと、今のビヴァリッチの様に、失業を資本主義に於ける一つの矛盾と考へ、此矛盾の調整としての立場をとるか、或は全く違つた生産力原理の立場をとるか大體二つの立場があると思ふんですが、此點はどう考へたら好いでせうか。

中山 その點ビヴァリッチの述べて居る所から見るとかういふ事になる。それはあの論證の一つの重要な部分になつてゐる歴史的な分析があるが、その場合に若し終始フルエンプロイメントになつてゐたら、一體どれだけイギリスの富が増加してゐたか、どれだけ無駄なしに進んで来たかといふことは、飽くまで生産力の問題だといふことを自覺してゐる。さうしてその生産力の問題を解決する原理はやはり需要から行くんだ。それはビヴァリッチに取つて一つの新しい原理である。

その原理を提供したのはケインズですが、ケインズが出て来るまでの失業問題は、産業の問題として解決を付けて行かうとして来た。しかしこれではどうしても駄目だ。そこで問題を展開して需要の點から持つて行くと、これを原理的に解釋することが出来るといふ事になつた。

ところがその需要をフルエンプロイメントに合致する所まで持つて行くといふ力は現在のところ、國家にしかない。國家以外にさういふ力を以て調整し得るものはない。かういふことになつて来る。いまの問題にしてもケインズの理論を借りてはゐる

が、一應の答へは持つてゐるんだらうと思ふ。

結局かういふ事になる。イギリス等で考へられてゐる生産力の発展の仕方はデマンドを媒介にしてゐる。つまり市場機構を媒介とした生産力の発展である。それに對して生産力をそれ自體として發揮せしむるやうな基盤から出來上がった經濟構造があるとするれば、之等二つの立場には生産力の問題に對して見方の違ひがある。従つてデマンド即ち市場を媒介とするやうな生産力の発展には或る限度があり、生産の原理によつて組立てられた國に追ひ付かれる危険がある。かういふ考へ方がなり立つわけせう。

そこで根本的な問題として生産力の発展が、さういふ市場機構の媒介なしにあり得るかどうかといふことです。例へばスミスのウエルス・オブ・ネーションズの中に出て來る分業による生産力の発展、これはいまの問題に置き換へると、あれは市場を媒介としたものを考へて來たわけです。職業的分業はいふまでもなく市場を媒介とするし、工場内の分業さへも市場の媒介といふことに影響されて來る。さうするとそれは市場を媒介とした生産力の発展と言はねばならぬでせう。

沖中 つまり需要の原理に立つ解決も、生産力の原理に立つ解決も、結果は何れも生産力の問題だといふわけですか。

中山 私はその場合には需要乃至市場といふものを媒介とするものも需要自體、市場自體に問題があるのではなくて、最後の問題はやはり生産力の問題だと思ふ。だから結局自由市場を媒介とするやうな生産力の發展機構、雇傭の調整とか、生産と消費のバランスとかいふものは、寧ろ國家計畫が取つて代るやうなさういふ機構、これ等の何れが生産力の發展には有利かといふ問題になると思ふ。

尤も生産力の問題としては共通だといふことは一應いつて差支へない。その上で今いつた二つの相違になると思ふ。そこでその問題として見るとビヴァリッチの考へてゐるやり方はフルエンプロイメントといふ前提は飽くまで守つてゐるやうですが、自由市場の交換機構に依存する態度を捨ててゐると思ふ。例へば、市場の自由な交換機構に依存して居ればどうしても出て來ない需要を、國家が例へば工事といふ形で作り出して行く。これは不況の場合に土木工事を起して失業者を救濟するといふ意味の

ものではなく、もつと根本的なものを持つてゐる。例へば個人の需要に任せて置けば、當分の間容易に達成され難いと思はれるやうな建築とか、住宅とかいふやうな設備については、初めから國家がその意圖を自ら喚起してやつて行かなければならぬ。さういふ市場機構を考へないやうな需要を國家が創出することによつて問題を解決して行かうとしてゐる。

それは恰度市場機構を考へないで生産力を計畫によつて發展させて行くといふ考へ方と、少くとも結論の形の上に於ては似てゐるといふことが出来る。だから出て來た形なり結果なりを虚心坦懐に見ると、恐らくイギリスに社會主義者が出て來ればやるだらうと思はれることゝ具體的には餘り違はないものになるんぢやないか。それ程似てゐると思ふ。そこを僕は問題にしたいといふわけです。

山田 / 先程から生産力のお話が出て來たんですが、資本主義經濟と社會主義經濟に於てどちらが生産力を増大するかといふことは、私にはせれば決定不可能の問題になるんぢやないかと思ふ。寧ろ問題は生産力の内容をなす生産の質或は生産物の種類

といふ問題になる。ビヴァリッヂのやうな計畫經濟的な資本主義を考へる人達は、一應消費の自由といふものを認める。しかしそれだけでは失業問題が解決出來ないから、國家の作り出す需要をプラスしたやうな或る形を考へ、それによつて生産を保護して行かうとするのぢやないか。

ところがもう少し消費の自由といふか、さういふものを抑へなければ到底失業問題は解決出來ないといふことになる、もつと違つた、社會主義的な、需要は初めから計画的に國家が決めてしまふといふやうな考へ方になる。

つまり生産の手段をどう考へるかといふ話ぢやないかと思ひます。生産力の問題になりますとどちらが大きいとか、小さいとか、どちらが發展的であるとかといふことは測定出来るやうでありながら、實はそれは生産の質の問題で、測定は出來ないのぢやないかと思ひます。その限りでは何れがよいかといふことは問題ぢやないと思ふのですが。

#### 4 資本主義の發展程度によつて問題解決の方式が違ふ

**沖中** 前にも申しました様に、イギリスのやうに生産力も高く、富の蓄積も多いといふやうな所では需要の原理によつて比較的單純に問題が片附けられる。アメリカも此點同様に考へられる。處が日本のやうに生産力は低く、富の蓄積程度も低いといふ所では、結局生産力を引上げないと問題は解決しない。そこで此様な場合にはどうしても生産力といふ事に問題が落付くのではないか。かうも考へられるんですが何うでせうか。

**山田** この場合、需要といつてもマーケット・デマンドだけでなく、それと離れて別に作り出す需要を入れるわけです。その入れる程度が、例へば日本のやうな一般に蓄積の尠い國では非常に強くなる。

**中山** 日本の場合とイギリスの場合と違ふ點は、具體的にいふと、イギリスの場合には國家の支出を多くするために公債を募集するにしても、租税を増徴するにしても、計數的にはんの僅かの増徴で間に合ふ。しかしかういふことは日本ではとても考へられない。日本では國民の所得の半分位を取つても果して現在の失業若しくは半失業を

救へるかどうかといふ疑問がある。その點は餘程違ふ。それが國富の充實さといふ財政的の表現です。その點は區別しなければならんと思ふ。

**沖中** さうするとかういふことになりますか。例へばアメリカとかイギリスのやうに非常に高度に資本主義が發達した國は、失業問題に關聯しても社會主義化しなくても失業は救済し得る。しかし日本とか支那とかいふやうな低度の所では國家が失業をなくする爲めの國家支出は資本自體に深く喰込んで行つて、當然社會主義化しなければ失業問題は解決されない。さうしますと一般に資本主義の高度化した國は社會主義化に對する抵抗が強力であり、日本とか支那等では社會主義化しやすいといふ事になるわけですね。

##### 5 我國の資本主義はどうなるか

——合理主義へ——

**中山** いまの議論の續きとしていへば、段々計畫化を進めて行くに當つて、資本主

義的な従来の經濟運営の武器を最も有効に使つて行くといふことが第一段階、それから一體いまいつたやうな意味の社會主義體制はどんな形で起るかといふことが第二の段階。第一段階としてはいきなり社會主義體制に入つて行くことは、これは事實上出來ない。その點ではドイツとは全く事情が違ふが、先づ第一の門まで行くところまで努力する。それは社會主義者であつても、資本主義者であつても現在置かれてゐる日本の破局状態を見ればやるべきことは大體決つて来る。その決まつて来たものについては、最も合理的な道、最も簡單最捷の道を歩むといふことが我々の當然の義務ぢやないかといふ風に思つてゐる。

社會情勢といふか、もう少し具體的に解釋して現在の日本の經濟状態といふものは、一口にいへば水準線以下にある。我々の問題として一番肝腎なことは水準線まで駆け上がるのだと思ふ。

水準線に駆け上がるには、やはりいままでの資本主義的な道具インディビジュアル・デマンドとかフエヤー・コンペティションとか、さういふやうなノルマルな道具立てだ

けでは足りない。これではどうしても間に合はないといふ面があるんぢやないか。だからその場合にはやはり少くとも水準線に上がるまでは、非常に強力な統制計畫といふものが必要になつて来て、その統制計畫によつて無駄な摩擦を避けながら、出来るだけ早く水準線に到達するといふことが問題になると思ふ。

だからその場合に取りられる対策としては、形の上では恐しく急激な社會主義化した対策が採られるだらうと思ふが、さてそれだからといつて資本主義的な體制から一足飛びに、段階を経ずに、過程を経ずに、いきなり社會主義體制になるかといふとさうではない。さういふ急激な対策を行ふ地盤は、いまのところやはり資本主義經濟の中で養はれた地盤である。だからその地盤の力を無視して、さういふ道を選ぶといふことは、やはり出來ないんぢやないかと思ふ。

だから現在としては、さういふ大きな問題を背後に潜めながら、しかも取るべき手段としてはやはり資本主義の常道ではなくて、寧ろ資本主義の奇道だと思ふ。その奇道は或る場合には社會主義的な外觀を呈するが、しかしそれによつて問題の根本的解

決は出来ないと思ふ。

山田 資本主義の原理が社会主義の原理より一般的に優つてゐるためにさういふことにならざるを得ないといふのではなくて、やはり社会状態にバックされた見透しとして、當分その方がよいぢやないか、さういふふうな話になりますか。

中山 さうです。資本主義原理と言ひ、社会主義原理といひ、經濟はいつでも合理的な原理によつて動いてゐる。つまり何が合理的かといふ、いはゞ外枠を決めるのが資本主義と社会主義の問題で、合理性自體といふものは動かないと思ふ。かういふ點から人類社会の進み方を考へると資本主義、社会主義、共產主義といふやうないろいろな形態を経ながら、人間の經濟は合理的なものに進んでゐる。さういふふうに確信してゐる。

だから合理性といふものゝ追求では現在の状態でも別にそれを控へて行く必要はない。飽くまでもそれを追求して行つて宜しい。さうして、現在の状態ではいはゞ資本主義とか社会主義とかいふやうな飾りの付いた合理主義を選んでゐる餘裕はないので

唯與へられたものを最小限度に見出すとなれば、生存に必要な合理性だけがある。これを見出すことが我々の義務だと思ふんです。



### III 計畫經濟の發展は經濟學の

#### 性格にどう影響するか

沖中 從來の所謂純粹經濟學は、自由主義の地盤の上にアトミスティックな方法論を採つて組立てられて來た。處が現在我國に於いても既に經濟の計畫化される部面が擴まり、將來は益々此の様な計畫經濟の色彩が濃厚になるでせう。かうなれば今迄の純粹經濟學の地盤が失はれて行く事になるんぢやないでせうか。

#### 1 計畫經濟乃至社會主義經濟に於いても經濟學が

アトミスティックな見方に立つといふ性格は不變である

中山 僕はさうは思はない。それは計畫經濟を研究してをられる山田さんから詳しくお話を伺ひ度いのですが、僕自身の解釋を申し上げますとアトミスティックといふか

或はミクロダイナミックな考へ方、その考へ方を外にしてはマクロダイナミックの考へ方は成立しない。

計畫經濟的といふ場合には國民經濟を全體として考へて國民の所得はどうなるか、國民の投資はどうかといふ風に考へなければならぬし、これを考へる必要は益々殖える。然しその場合投資する人間の個別活動にはアトミスティックな立場から考へねばならぬ面が残つてゐる。それを無視して所謂ジェネラル・タームだけで考へるとすればそれは唯空轉りになる。その意味で從來の經濟學の方向は基本的には失はれないだらう。

社會主義經濟學を計畫經濟學に引直して見ても此の點は同じやうにいへる。例へばリカードの經濟學は利己心を中心に、個人に重點を置いてゐるが、これはマルクス經濟學の如き社會主義經濟學と基本的には變つてゐない。此等二つの經濟學がどれだけ異つてゐるかといふ程度については議論の餘地があるとしても、理論經濟學としての性格は變つてゐないと私は思ふ。

といつて計畫經濟の發展に伴つていろいろな經濟問題をジネネラル・タームで考へて行くといふ可能性は充分に残されてゐるといふ事は否定するわけではない。却つてこれによつて經濟學の内容は益々豊富になるに違ひないでせう。

**沖中** さうするとかういふ事になりますか。所謂社會主義經濟學は資本主義經濟の分析を社會主義の立場から行ふ經濟學である。然し純粹な意味の社會主義經濟學といふものは、社會主義經濟の確立した場合の經濟學であると思ふ。假りにさういふ段階に到達したとしても尙經濟學の基本的な方向は失はれないと言ひ得るでせうか。

**中山** その問題はいま都留君が世界評論なんかで紹介してゐるが、アメリカの學界でソ聯の學界と連繫して非常に大きな問題となつてゐる一つの問題、つまり純粹の社會主義經濟が成立した場合に一體その經濟分析の基礎になる價値論は、マルクスが考へたやうな價格主義的な世界主義といふあの分析のやり方でいゝか。あの武器といふものは今あなたが言はれたやうに、確かに資本主義分析の最も有力な武器であつたことは事實でせう。然しそれ以上の純粹な社會主義經濟にそれが妥當するかどうか。

此の點については最近アメリカでも論争が展開されてゐるやうですが、假りにマルクスの考へてゐるやうな價値論が純粹社會主義經濟に於いて妥當でないとした場合、それに代はるものは個人の生活欲求の充足程度に従つて個々の財の價値を考へて行くといふことにならねばならぬ。さうなるとやはり、新しい形に於いてははあるが效用の概念が展開される可能性がある。その效用といふのはやはり個人といふもの、或ひは個人の生活といふものに基礎を置かねばならんだらう。その意味に於いては依然アトミスティックな、ミクロダイナミック・システムが經濟學の基礎になる。かういふ風に考へてゐます。

**山田** 僕も今の中山さんの結論に同感です。最初ロシヤの社會主義經濟はかなり極端なことを考へてゐたと思ふ。處が實際に色々やつて見た結果、やはり價格を認めた計畫、さういふものに大分移つて來たんぢやないか。さつき中山さんがいはれたやうに、ロシヤの場合はいろいろの統計資料を使つてマクロダイナミックなコージェイシメント(係數)を掴んで、それを計畫經濟の道具にするんですが、それを實現する

際にはやはり個々の消費者や生産者の反応を見て行く。かうして個人個人を基礎にして計畫を立てたり、計畫の建直しをやつたりしてゐる。さういふ意味に於いては今の經濟學でやつてゐるアトミスティックなやり方といふもの全體を決して否定するものではない。

唯そこにいろいろのコーエフィシエントを入れて社會全體を掴んで行くといふ要素が入つて来る。此處にマクロダイナミックな分析が入り込んで来るんですが、これを經濟學自體が變つてゐるのだと見るか、いやそれは變らないのだと見るか、そこに問題がある。

**高橋** 僕もさういふことを考へるが、今迄はアトミスティック或はミクロダイナミックの分析によつて出て來た理論が理論の中心になつてゐる。處がさういふミクロダイナミックの功績に蔽はれてゐたものの中に、實はもつと客觀的な或ひはもつと物的な法則といふものがあつた。さういつたものが今度計畫經濟を考へる場合にはズツと前面に押し出されて来る。それをもつとはつきりと取上げて行く必要がある。全面的

にミクロダイナミックなものを否定するわけではないが、今迄はそれだけで済ましてゐたものを、それに蔽はれてゐたさういふものを取出して見るといふ問題が擴がつて來やしないか。

**沖中** 此の點について大河内さんはどういふ風にお考へでせう。

## 2 然し構造の分析理論乃至マクロコスミックな

立場が益々前に出て來るのではないか

**大河内** 今迄お話のあつたやうな意味のアトミスティックな經濟學が將來全然なくなるとは、僕も思はない。從來とてもアトミスティックな經濟の考へ方が一應ノーマルな理論を作つて來たわけですが、それだけが全部ではない。その他にアトミスティックな考へ方でない分析理論も從來からあつたと思ふ。或る意味ではアトミスティックな考へ方と拮抗して來たのではないか。將來とてもやはり個別經濟的な要素が經濟組織の中に大きな領域を占める以上は、やはりアトミスティックな意味での經濟理論は

相當な場所を持ち続けるだらうが、同時にそれと並んで、考へ方としては對立しながら、アトミスティックでない經濟の考へ方がもつと廣い部面を占めるのではないかと思ひます。

その場合に分析といふ言葉自體にいろいろな内容があると思ふ。アトミスティックな態度での價格關係の分析といふものも、これは一つの分析であるが、同時に例へば經濟構造の分析もやはり分析といふことの一つの大きな意味でもあり違つた領域でもある。つまり價格關係を支へてゐる經濟組織なり經濟機構なりは一應價格關係とは別箇のもので、價格關係はそれらを蔽つてゐるヴェールのやうなもので、従つて價格現象はノーマルの現象として將來も亦續いて行くといふ限りに於いては之も亦分析の對象になる。

然し資本主義的な經濟關係或は主として價格關係は過去に於いて變質を遂げて來たし、今後益々大きく變質を遂げて行くだらう。さういふ變質そのものは價格をどう分析して見てもそこからは出て來ない。逆にもつと大きく構造の分析から價格の變質が

導き出されて來る。その場合に價格現象を支へ或ひは價格現象のベースになつてゐる經濟の組織なり構造なりの分析理論といふものを、別の分析論として考へていゝぢやないか。從來もさうであつたし今後もさうだらうと思ふ。つまり諸々の價格の間の相互關聯といふこと以外に、それを支へる經濟の基礎構造、そこに分析のもう一つの領域がある。さういふものと中山さんが仰しやつたアトミスティックなエコノミック・サイエンスとは切離してはならないと思ふ。

沖中 山田さん、どうでせうか。

山田 さきに中山さんがいはれたやうに、經濟學がポジティブ・サイエンスであるといふことは今後も恐らく變はらないだらう。然し周圍の條件が變化するのであるからポジティブ・サイエンスといつても、その分析するいろいろな道具立ては變はるんぢやないか。

さういふ場合に今お話のアトミスティックな世界を考へて、それを前提として分析するといふことは、もう役に立たない形式ぢやないかと思ふ。そこで大河内さんのい

はれた構造分析の問題とも関係してくると思ひますが、私はミクロコスミックの考へ方とマクロコスミックの考へ方とを切離さないで行かねばならないと思ふ。寧ろマクロコスミックな考へ方をうんと入れなければ現實の經濟現象が充分に理解出來なくなつて來た。條件が變はることによつて、ポジテイヴ・サイエンスであることに變はりはないかも知れないが、形式そのものはやはり變はるんぢやないかと思つてゐます。

物理學でもさうであらうと思ふ。ニュートンからアインシュタインに變つて行く過程を見ると、ニュートンの力學的な考へ方では電氣とか熱とかいふやうな問題は解けない。その新しい經驗に發足して形式も變はる。

それが經濟學では、前の表現を借りていへば、ミクロコスミックな考へ方からマクロコスミックな考へ方への發展だといへると思ふ。従つて國民所得といふやうな全體の構造を相關的に見て行つて經濟全體の動きを非常に強く出し、而もそこに計畫的な要素を多分に入れたやうな形式のものになる。唯此の點について大河内さんのお話では、何か二つの領域が同時に存在するやうに考へられてゐると思ふのですが、私はさ

うは考へない。従前の經濟學と今後の經濟學とは此の點に於いてやはり變はるんだといふ風に考へ度いのです。

沖中 さきに中山さんは、今後の經濟學ではマクロコスミックな考へ方とミクロコスミックな考へ方が綜合されなければならんが、經濟學の本質的な性格は變らないといふやうにいはれたと思ひますが、此の點についてどうお考へになりますか。

山田 勿論、ポジテイヴ・サイエンスであるといふ意味では變はらないと思ひます。中山さんはその點を強調されたのでせうが、それぢや何處が變はるかといふ質問を出し度い。その變はる點はまだはつきり言はれてゐないやうですが、從來は極端にミクロコスミックな調和を考へようとする見方が支配的であつたがそれぢや役に立たない。これだけは認めていゝぢやないかと思ふ。

高橋 ミクロコスミックかマクロコスミックかの問題を考へる場合、一つの例として能率の問題を取り上げて見れば非常にハッキリして來る。例へば資本の能率を問題にして、個々の資本の能率といふ意味でミクロコスミックに考へるか、或ひはマクロ

コスミックに社會全體の資本能率を考へるか。

その場合今迄は資本利子論が中心になつて來た。これはミクロコスミックの考へ方の非常にはつきりした現はれ方だと思ふ。それに對して社會全體としての資本の構成論といふ所へ持つて行つて考へれば、それはマクロコスミックの考へ方といへる。之を能率の問題として考へる場合に、ミクロ的な考へ方が前提となつてゐれば、個々の資本のエフィシエンシイが高ければそれを集計して社會全體のエフィシエンシイが高いといふことになる。社會全體の需要乃至欲求が價格經濟を通じてかういふ形で表現されて來ると考へられてゐるからだ。かういふ考へ方は或る意味からいふと一番客觀的な考へ方だといふか、言葉は悪いかも知れないが無批判的な考へ方だとも見られる。

それに對して社會全體の欲求システムを何か違つた目的について考へ出す。さういふものが出来た時に社會全體の欲求の體系といふものはつきりした形で出て來る。それに應へようとするればミクロコスミックな從來の分析方法では問題が解決されない。マクロコスミックな形で分析するより他に仕方がないぢやないかと思ふんです。

沖中 社會全體の欲求とは、例へば具體的にいふとどんなことになりですか。

高橋 例へばロシアで社會主義經濟をやつて行くといふ場合に何か素晴しく大きなダムの計畫をするとすれば、これは特定の目的を考へなければならぬ。その場合ロシアといふ社會全體としての欲求のシステムといふものが特殊の形で出て來る。さういふものにアダプトして行く爲には從來のミクロコスミックの法則理論といふものは應へられないものがあるといふ氣がする。さうすれば當然、計畫經濟といふ問題と結びついて來る。同時に資本の能率を考へる場合には、ミクロコスミックに個々の資本のエフィシエンシイを集計して見るといふ場合とは非常に違つた問題がそこにあるんぢやないですか。

### 3 ミクロコスミックな立場と

マクロコスミックな立場とは綜合され得るか

沖中 そこでミクロ的立場とマクロ的立場とを綜合するといふ場合、具體的にはど

ういふ風に綜合されるかといふ問題ですが……。

山田 例へば、ソ聯の經濟に於ける價格法則、或ひは價值法則の問題がある。恐らくこれについては二つの意見、價格法則といふものは社會主義經濟には不必要だといふ考へ方と、やはり價格法則を認めるといふ見方があると思ふ。若し經濟の運行に價格は不可欠な手段だと考へると、その價格といふ問題にミクロコスミックの考へ方とマクロコスミックの考へ方が綜合される。

社會主義の場合にも經濟の運行には價格を媒介にして全體を綜合するといふプライシステムを考へる。かういふ點から見ると、そこにミクロコスミックの見方とマクロコスミックの見方が綜合される。そこで此等二つの立場をくつつけなければならぬといふ考へ方が出て來るんじゃないかと思ふんですが、その點はどうでせうか。

大河内 くつつけるといつても斯ういふことになりはしませんか。つまりその場合にマクロコスミックな全體の考へ方が基調になつて、それによつて從來のミクロコスミックの考へ方が考へ方としては否定される。寧ろマクロコスミックの考へ方が全體

の考へ方として浮び出て來るんじゃないかと思ふ。

山田 それが基本になるといふことは認めます。然しその場合、もう一つ問題になるのはさつきのダムの例ですが、初めからこれだけの規模のダムを作れといふ風に命令で以つて個人に接するといふ形も考へられます。然し強制ではなくて、そこに何か價格といふものを媒介にして計畫を行ふとか、また一旦全面的に計畫したものをその進行中の実績を見ながら變へて行くといふ風なやり方が採用されると思ふ。何かそこに全體と個人との連絡を考へることになると思ふ。

大河内 私は經濟運行の技術としての價格方式を技術として採用するといふ意味で連絡の必要は勿論あると思ふが、さつきお話のあつたミクロコスミックの考へ方といふものは、例へば個々の經營の立場の總計が即ち全體の經營の立場だ、かういふ一つの考へ方の上に立つてゐる。さうだとすればさういふ考へ方はやはり考へ方としては否定されてゐるわけです。

山田 さうかといつて全體を見て命令を下すといふ形とも違ふでせう。

大河内 たゞそれを総合するといふ場合に、総合されるものが両方から来て合はさつたといふのでなく、ものゝ考へ方にマクロコスミックな基調があつてミクロコスミックの考へ方は技術として利用されるといふ關係になりはしないか。

高橋 二つの考へ方が唯結びつくといふことは出来ない。そのどつちかゞ主になるといふ關係がどうしても出て来る。その場合問題になるのはミクロコスミックに考へて個々のアトムを集計すれば全體になるかどうかといふ事だ。そこで例へば個々の資本のエフィシエンシーといふ法則を如何に掴むかといふ關係がそこへ出て來ると思ひますが、さつき山田さんがいはれた價格システムは、その場合には價格のメカニズムとしてあるか、或ひは計算の方法として考へてゐるのか、どつちですか。

山田 やはりメカニズムといふことも入れてゐると思ふ。つまり價格といふものは計算の基準を與へるものだが、計算の基準を與へることによつて、各生産を分擔してゐる者の計畫が出来る仕組です。さういふ意味でやはり價格のメカニズムは入つてゐると思ふ。

高橋 その場合やはりその價格を基準にして生産が左右されるといふ考へ方の中には、ミクロコスミックなものをドミナントなものとする考へ方があるんぢやないか。

山田 今迄のマーケット・プライスのやうな、個々人の評價が反映して賣買に於いて初めて成立するやうな價格ではなくて、多分に計算的な意味があり、同時にそれは生産乃至消費をする場合の各個人のインデックスになるやうな價格ではないか。然しそれは國によつて大分違ふと思ふ。

高橋 あなたの場合の『計畫の經濟理論』はどうもミクロコスミックな方法から入てゐるやうな氣がするんだが……。

#### 4 經濟構造なり經濟秩序の見方なりが

發展するに伴つて、經濟學の方法論も亦發展する

沖中 今迄の御話でミクロコスミックな考へ方とマクロコスミックな考へ方、此の二つの立場の内の前者は依然として經濟學に重要な役割を占めるといふ事に變りはない



い。然し後者の方が段々前面に押出されて来る許りではなく、それが基調となるのではないかといふ御意見の方が強かつた様に考へられます。此等二つの立場が綜合されるといふ場合、唯單純にくつつくといふのではなく、マクロコスミックの立場が基調となり、ミクロコスミックの立場が之によつて用ひられるといふ意味に解釋されるかと思ひますが、此の點についてはまだ完全に御意見が一致したとは言ひ得ないと存じます。

然し經濟學の方法論が從來のミクロ的一本からマクロ的なものに發展して來た。今後計畫經濟の發展に伴つて此の傾向は益々進められるものと考へられるのですが、それでは此の様な方法論の發展は一體何によつて促されるのであらうか。方法論自體が自律的に發展するのか或ひは他律的に發展するのか、此の點についてどうぞ。

**黒澤** 少し見當違ひになるかも知れませんが、物理學ではミクロスペクテイヴ・アナリシスとマクロスペクテイヴ・アナリシスといふものは初めから兩立してゐる。どちらが駄目だといふことはなかつたと思ふ。といふのは大體物理學は出發點がマクロ

スペクテイヴ・アナリシスで、それが次第にミクロスペクテイヴ・アナリシスに發展して量子論が出来上つた。かうして物理學は因果の法則から偶然の法則へ向つて進んで來た。

然し經濟學は物理學とは違ふ。ミクロコスミックにアナリシスを使ふか、マクロコスミックにアナリシスを使ふか。中山さん流にいへば經濟學の本質は依然としてポジテイヴ・サイエンスである。物理學も勿論ポジテイヴ・サイエンスである。物理學も勿論ポジテイヴ・サイエンスだが、經濟學の場合には物理學とは違つてさういふ風にメソドロジーが變はるといふこと自體が、經濟構造が變はるといふこと、表裏一體である。ポジテイヴ・サイエンスではあるが、經濟構造の變動に伴ひその分析方法も亦變化する。その場合にも猶、經濟學の性格が變はらないといふことは言ひきれないのではないか。

だからミクロ的方法にマクロ的方法が同化される、或ひは吸収される、或ひはマクロ的方法にミクロ的方法が同化吸収されるといふ問題を唯方法論自體の發展として論

じてゐたのでは問題が解決しない。經濟構造の變動の方からメソドロジイの問題を見なければならぬ。

高橋 私は今の方法論の發展についてかう考へるんです。何か一つのメカニカルな經濟世界といふものを考へて、そのメカニックの中での法則といふものを分析する。これが今までのミクロコスミックのやり方だつたと思ふ。さういふ分析が行はれたやうなメカニックの世界といふものゝ秩序は何か與へられた秩序だ。動かし難いどうにもならぬものだといふやうな感じがする。さういふやうな經濟社會の秩序に對して、これは動かすことが出来るものだ、變へることが出来るものだといふ考へ方が起つた場合に、やはりマクロコスミックの考へ方が起つて來たといふ氣がする。

一つはロシア的な考へ方、一つはアメリカ流の統制經濟、これは話が少し別になる、か知れませんが、あれだけの繁榮を齎したアメリカの經濟を對象とする經濟學の方法は相當問題になると思ふ。その根柢には、一方では經濟社會の秩序といふものは何か與へられた動かし難いものではないといふ考へ方があり、他方では經濟の構造といふ

ものを擱へて統制經濟の基礎にするといふ考へ方がだんだん出て來たんぢやないか。つまり、今までの動かし難いといふ考へ方に對する反省が起つたといふことゝ、もう一つは方法としてストラクチュアを擱へる。此處にマクロコスミックに經濟を擱へるといふ考へ方が發展して來たといふ氣がするんですが……。

土屋 非常に見當違ひかも知れませんが、マクロ的なアナリシス、ミクロ的なアナリシスといふことは、自由主義經濟學に於いても例へばスミス等の場合に既にこれが統一されてゐるんぢやないですか。大河内さんどうですか。

大河内 僕はスミスの場合にはさうだつたと思ひます。

黒澤 スミスは確かにマクロスペクティヴであつたと思ひます。然し均衡理論が出て來てからマクロスペクティヴの見方が修正されてミクロスペクティヴの見方になつた。だから今後の經濟學の方法の中へマクロ的方法が入つて來るといふ場合のマクロダイナミック・メソドロジイはスミスが考へたマクロ的アナリシスとは違ふものだと思ふ。同じくマクロ的といふ言葉でいひ現はされてゐても違ふものではないか。いま

高橋さんのいはれたやうな問題と關聯したマクロコスモス或ひはマクロスペクテイヴな見方とその一つ前のマクロ的な見方とは違ふものだといふ風に考へるんです。

高橋 スミスの資本蓄積論なんかは、これは或る意味でマクロコスミックに見てゐた。それが全體の線になつて特にその中で交換經濟が一番エフィシェンシイが高いといふ風に考へたのだらうから、その點ではマクロコスミックに考へたとみてもいゝやうな氣がする。

黒澤 ナチュラル・プライスは明かにマクロ的な考へ方だと思ふ。自然價格の考といふものはアトミスティックのものに發展したけれども、その根本思想はマクロコスモス的な考へ方から出て來た。つまりマクロコスモス的なものからミクロコスモス的なものに進んで來た。少くともこれまでの經濟學は最初からミクロコスモス的でなく、初めはマクロコスモス的であつたものがだんだんミクロコスモス的なものになり、さうして再び又それが轉換しようとしてゐるんじゃないかと思ふ。

土屋 スミスのみならずリカードにしても或ひはミルにしても、やはりその點は同

一ぢやないですか、その點はどうですか。

高橋 資本蓄積論のやうなものになると餘程影を薄めて來たやうな氣が致しますが……。

山田 問題はかういふことになりませんか。單に全體を相關的に見るといふ見方は、これはケネーにもあつたし、スミスにもあつたし、マルクスにもあつたでせう。然し最近我々が取上げなければならん問題は全體を見て經濟秩序を動かすことが出来る。即ち絶對のものでなくてそれは動かすことが出来るといふ考へ方、つまり計畫といふモメントを入れた所にさつきからお話のマクロコスモスといふ考へ方が出て來たので、言葉として單に相關的に見るといふことになるとその區別がつかなくなる。

高橋 マクロ的な見方とミクロ的な見方と、もう一つ違ふものがあるやうな氣がするんです。ミクロスペクテイヴ・アナリシスの場合には何か運動法則だけが考へられてその運動自身の方向とか速度といふもののはつきり出て來ないやうな氣がする。それが動態論に出て來た場合、つまり景氣變動論の場合には單なる上下運動が問題だ

が、全體としての構造變化、それから出て来る發展の方向、速度といふやうなことは問題になつてゐない。マクロコスミックの場合、經濟を構造として考へる時は、その構造自體が同時に進むべき方向を内に持つてゐる。又、或る速度まで持つてゐるといふ感じがするが、さういふことはいへないでせうか。これは餘程違ひが出て来る筈だといふ氣がする。

**黒澤** その問題は經濟學の豫見といふ問題に非常に關聯して来る。古い本ですが、ムアアのシンセティック・エコノミックスの中に出て来る豫見は非常にアトミスティックなものです。米とか砂糖とか小麦とかいふ様な個々の作物の統計資料、つまり個々別々のシンプトンで經濟の將來を豫見して行かうといふやうに考へてゐる。處がこれから問題になる經濟學のアンティイションなるものは經濟構造全體の豫見といふ問題に關係し、その將來に對する洞察の立場が非常に違つて來た。

これは結局經濟の構造そのものが經濟の見方を規定するからである。經濟學の方法そのものゝ自己發展ではない。つまりメソドロジイそのものがミクロ的なものからマ

クロ的になり、マクロ的なものがミクロ的なものになるといふのでなくして、經濟の構造がアトミックなものからマクロコスミックのものに動いて行く。それに對應して經濟學のメソドロジイを變へて行くといふやうに考へるんですが……。

**山田** それは同感ですが、唯一つかういふ疑問があるんぢやないですか。ミクロ的の見方には不足の所があり間違ひがある。正しくなかつた點があると思ふ。例へば經濟秩序といふものは決して變化しないものだ、個人の自由活動の結果調和がとれてその儘で變化をしないといふ考へ方が含まれてゐる限り、それは間違ひだと言ひたい。そこにやはりメソドロジイ的な發展といふ面がある。確かに現實の我々の經驗する世界が變はれば勿論方法も變はらなければならんといふことは同感ですが、然しそこにもものゝ見方に或る程度正しくなかつたものがあると思ふ。つまり學問として方法論上の發展といふものがある。單に外側から規定されて形が變はるとだけいふんでは何か言ひ足りないやうな氣がする。

## IV 資本主義的經濟學と社會主義的經濟學との統一は可能であるか

沖中 今迄は、經濟の計畫化はこの國でも避けられない必然の方向であるといふ立場から、經濟學の將來ある可き姿を御話合ひ願つたわけです。當然問題は資本主義的經濟學と社會主義的經濟學との交渉に入らねばならなかつたのですが、今度は之等二つの、少くとも現在に於ては相對立する經濟學の交渉といふ問題を正面から採り擧げて見たい。

つまり問題をナイーブな形で提出して資本主義的經濟學と社會主義的經濟學といふ二つの型の經濟學を列べて見て、將來は之等の内の一方が他方に取つて代るだらうか、或は將來を通じて對立を續けて行くものだらうか、或は又何れかの一方が他方を取入れて総合的な乃至は統一的な理論を形成する可能性があるものだらうか、若しそ

の可能性があるとすれば、一體それはどういふ形のものであり、どういふ内容のものであるか。かういふ事から御話を願ひたいのです。

尙此問題は極度に複雑であり困難な問題を含みますので、便宜上大體三つの視點から追つて頂いては何うかと思ひます。第一は方法論の立場、第二は批判的態度、更に第三は階級性の立場といふ風に凡その視角を御きめ願つたらと思ひます。

### A 方法論の立場から

#### 1 經濟學の二つの方向

——現象の計量と社會性の究明——

有澤 私はその問題についてかういふ風に考へて居ります。現在の經濟學の問題といふか、或はその任務といふかをどういふ風に考へるか。従來は經濟過程をナチュラル・プロセスだといふやうに考へて來た。經濟過程そのものがナチュラル・プロセスであるといふことには勿論變りはないんだが、問題はこれを合目的化するといふ點に

ありはしないかと思ふ。これも非常に通俗な言葉でいへば経済政策の問題といふやうな言ひ方をしても宜いと思ふ。しかし唯單純な経済政策ではなくして、その経済政策には自然過程を合目的化するといふ意味の理論がなければならぬとも言へるだらう。

それではその経済理論乃至経済學はどういふ任務を持つべきものかといへば、一つには現象間の計量化といふか、計量を行ふといふことだと思ふ。只今迄のお話の中にも統計的研究或は統計學が経済學の中に大いに取入れられるといふやうなことがあつたが、最遅盛になつて來た経済現象間の計量といふ問題と非常に關聯してゐるやうに思ひます。この経済現象間の計量を行ふといふことが著しく發達して來てゐるやうですが、その結果或る程度まで自然的過程たる经济過程を合目的化する可能性が出來たやうに思ひます。

現在の経済學の一つの任務は確かにその點にあり、所謂資本主義的経済學といふものは計量化の方向に向つて行きつゝあるやうに私には思へる。

しかし経済學の任務としては、その計量化の問題の外にもう一つ重要な問題がある。

と思ふ。表現は不正確かも知れないが、私は現象の社會性の闡明乃至究明といふ點にあるんぢやないかと思ふ。もう一つ別な言葉で言へば、政策なら政策の指向に於て考へて行く場合、その思惟に社會性を持たせることぢやないかと思ふ。この経済學の任務としての社會的思惟、経済學の思惟に於ける社會性と申しますか、この社會性を明かにするといふことは結局現代の经济組織乃至制度の批判なくしては出來ない。社會主義的経済學といふのは、結局その面を擔當すべきものゝやうに思ふ。又その面を擔當する點に於て著しく進んだ學說だと思ふ。

だから兩者を調和することが出來るかどうかといふことは、はつきり分りませんが、しかし現在の経済學としての所謂資本主義的経済學、所謂社會主義的経済學が依然として存續し得るといふことは言へるやうに思ふ。さうしてそれが兩方とも今後益益それぞれの任務として、それぞれの課題を解くために精緻になるだらう。その點に於ては兩者が交錯するといひますか、相手の武器を利用するといふ形に於て互ひに交錯した發展を遂げるといふことは考へられます。勿論兩者が合致し提携する事が出來

れば一層理想的なものが出来上るやうにも考へられますが、それは一寸出来るとは思へない。

## 2 第三の理論による統一

中山 非常に良いお話を伺つたんですが、そこに實はもう一つ問題があるんじゃないかと思ひます。大體第一の場合の理論の政策化乃至政策的理論といふやうなものが経済學全體の方向だといふことは私も全く同感で、その點を非常にはつきりいはれたことは敬服の至りです。さてその任務を達成して行く爲に二つの途がある。一つは經濟關聯を量的に把握して計畫化に近付けて行くといふ問題、もう一つはさういふ問題を見る社會性をはつきりさせるといふ點。今有澤さんは之等を強調されたわけですが、そのどちらの底にも、もう一つさういふ形で現はれる前のいはゞ原型としての理論といふやうなものがあるんじゃないか。

例へばアメリカでいま一番盛んになつてゐる國民所得の研究とか或はエンプロイメ

ントの研究とか、さういふものを段々消化して行つて國民所得の計數的把握が完全になつて來れば來る程、全體を見透して計畫を立てるといふことになつて行くんですが、さて國民所得を掴む場合にも色々な方法がある。さういふ方法を單に數字の面から掴んで行くのではなくて寧ろ理論的な基礎の上にその數字を組立て、行く。之が今の國民所得の問題としてはやはり非常に大きな問題である。さうすると計畫化といふ問題の底にやはり純粹理論、かういふ言葉を使ふと叱られるかも知れませんが、一つの純理論的な問題が入つて來る。

それから第二の側面では、さういふ經濟現象の意味を掴へる場合の社會性を現はす、又その社會性を以て現在の經濟體制の缺陷を批判するといふ點で社會主義が非常に大きなケースを持つてゐる。然しこれもその底に或る一つの理論がある。さういふ理論を離れて單に或る現象の社會的影響を量る、或は社會的意味を量るといふやうなフィロソフィカルな研究だけでは科學的社會的研究の強さが出て來ない。それにはやはりその底に一つの理論が必要である。

さうすると前の場合に豫定された或は前提となつてゐる理論と、後の場合に豫定され或は前提となつてゐる理論といふものがどんな性質のものであるか。これがやはり問題になり得るんぢやないかと思ふが、その場合に若しその二つの底にある所の理論に何等の共通性もない、或は橋架けがないとすれば、いまいはれた二つの課題は寧ろカテゴリーの違つた二つの課題として併行して行く可能性が非常に強く、これが互に交渉する面が非常に少くなると思ひます。實際の展開としては恐らく有澤さんのいはれたやうに或は暫くの間或は相當長い期間この二つの側面が併行して行くだらう。然し私はその併行して行く中にお互ひの間に色々の交渉が起つて、それぞれの基礎になつてゐる理論が、もつと統一的な立場で考へられる時が来るんぢやないか。又さういふ機運が部分的ではあるが相當起つてゐるんぢやないかと思ふんです。

その一つの例を挙げるとカレツキの (Michal Kalecki, Essays in the Theory of Economic Fluctuation, London, 1939) 等は從來の限界コストといふ概念を使つて而も獨占とか國民所得といふやうな大きな問題の統計的分析に結付けると同時にさういふ統計的分

析なしに樹てられたマルクスの理論との交渉を始終考へるといふやうな行方をしてゐる。さういふ研究が進んで行けば何かしらそこに共通の理論的な地盤が一つ出来上つて来るやうに豫想される。

もう一つの問題は、價值論の側面に於てもマルクシズムの價值論といふものは資本主義經濟の分析としては非常に有効だといふことが寧ろ資本主義經濟學者陣營の中かからさへも今日では認められてゐる。しかも資本主義自體が段々獨占資本主義になり金融資本主義に變つて行く場合、さういふ價值論自體の基礎を、修正資本主義の段階に應じて考へ直して行くといふ問題はないだらうか。

例へばソ聯に於ける新しい價值論は勞働價值説の儘でいゝか、資本とその搾取といふやうなものを前提とした勞働價值論で分析が出来るかといふやうな問題を、これは實は極く僅かな文献で推測するに過ぎないんですが、少くとも一部はソ聯の經濟學者の中から提起されてゐる。さういふ問題を突込んで行くと恐らくやはり價值論といふやうな面に於ても統計學的な研究の基礎になるやうな理論と、それから社會的意識



をハッキリさせ、批判的な立場に於て展開して行く場合の價值論との間に交渉が出来て来て、之等を取扱ふ共通の地盤といふものが出来上りつゝあるのではないか。

この様に考へると今併行して行くだらうといはれた問題の底に、その併行にもう少し有機的な關係を齎らすやうな關聯が残つてゐるのぢやなからうか。その問題が一體何處まで今後の状態に従つて展開するかといふことは、これは一寸豫測が出来ない點もあり、事實資本主義が今後どうなるかといふ具體的な問題にも關聯して來ると思ふ。唯事實の問題として見れば併行して行く可能性の方が強いといふことは私も認めます。それにも拘らず尙ほその底に胎動してゐる一元化、兩者共通の地盤の形成といふやうな問題を私自身としては伺ひたい。

有澤 今の中山さんのお話は、つまり中山さんの言葉でいへば純粹經濟學といつちや悪いかも知らぬが、ともあれ純粹理論的なものがあるといふことを主張されたのでせうが私も何かさういふものがあると考へなくちやならないと思ひます。しかし私の考へでは、社會性を追究するといふ場合の經濟學は換言すれば經濟現象の關聯の社會

性を追究するといふ意味は實はさういふものぢやない。純粹といふ言葉は私には一寸工合が悪いが、中山さんの第三理論ともいふべきものは、結局色々な經濟現象、經濟過程を一應自然的な過程として純客觀的に取扱ふといふ態度ではないかと思ふ。そこで經濟過程を自然過程として純客觀的に取扱ふといふことは、これはいはゞその社會を全體的に見るといふこと、それからもう一つはその社會に於ての在るべき運動法則を追究するものに外ならないと思ふんです。さういふ法則がハッキリしなくちや到底經濟過程を合目的化するといふことは出来ないに決つてゐる。若し出来たとしてもそれは全く偶然的なことで意識的計畫的に出来たものとはいへない。従つてさういふ自然經濟における法則性を追究するといふ意味に於ての理論がなければならんといへる。又さうでなければならんと思ひます。

しかしその運動法則を追究するといふ理論が、私の考へでは、實は社會性を闡明するところの理論であると、かう考へてをります。だからさつきの私の言葉をもう少し修正していへば、その社會性を追究するだけでは現象間の量的の關聯がハッキリしな

い。所謂現代經濟學はこの量的關聯を明にするといふ點を可なり發展せしめ解決したといふ風に考へるのです。ですからそれを資本主義的經濟學といはなくても一寸も差支へないのです。

3 資本主義經濟學と社會主義經濟學との區別はどこで立てるか  
——コエキジステンスの分析とカウザリテートの追跡——

沖中 大河内さん此點如何ですか。

大河内 私としては只今の兩先生のお話を伺つて非常に面白いと思ふのですが、さうなると結局は資本主義的經濟學とか社會主義的經濟學といった先程から提示されてゐる區別には意味がないといふ風に諒解していゝでせうか。

有澤 社會主義的經濟學とか、資本主義的經濟學とかいふことは、司會者が用ひられて居たのでその言葉を使用して來たのですが、それが一體どういふ内容を持つてゐるか、私も實は承りたいと思つてゐる點なんです。

沖中 私が之等の用語を使つたのは、前にも申し上げましたやうに、問題をナイーブな形で提出するといふ意圖を以つてあります。例へば一般學生から、かういふ形で質問が出た場合に、經濟學にこの様な二つの區別が如何なる意味に於てあり得るか或はそのやうな區別が本來あり得ないものか何うか。此問題にも答へて戴きたいといふ考を持つて居た譯です。

高橋 一體此區別は資本主義經濟を分析する二つの立場として考へるのか、或は資本主義經濟と社會主義經濟といふものを二つ對立させて考へるのか、この點がハッキリしないやうな氣がする。

大河内 僕は高橋さんのいはれた前の態度が問題の焦點だと思ふ。さういふ意味で今の言葉を使ふなら納得する。結局同じ資本主義經濟といふものを對象とする場合には態度——態度といふ言葉は甚だ曖昧ですが——先づその態度を考へるのがいゝんぢやないか。メンガーは經濟學方法には二つあるといつてゐる。一つは現象間のコエキジステンスの分析、もう一つはカウザリテートの追跡であるといつてゐる。

その場合に問題の二つの扱ひ方がそれぞれ今日まで發展して來たと思ふんですが、先程お話の出た社會的の觀點に立つての扱ひ方といふ點から考へると、カウザリテートといふ問題の扱ひ方に重點が置かれる。同じ現象であつても、現象間のコエキジステンスを追究する場合には、原則として量的現象の相互依存關係といふか、共存關係といふか、これのエグザクトな分析が中心になる。しかしその限りではいくら精密になつても社會現象のカウザリテートの關係は一向出て來ない。その場合にも非常にドグマティックな社會關係を引出すこともあるけれどもそれは獨斷論で本來は出て來ない筈だと思ふ。

經濟學の任務なり仕事の領域なりといふものは飽くまでも現象間のコエキジステンスを焦點に置いた精密分析或は計量的な追跡にあるといふことも一つの社會的の態度で、さういふ態度自身が一つの社會的なものを含んでゐると思ふ。しかし同じ現象を取扱ふにしてもカウザリテートといふ立場で問題の分析を行ふ場合には、一定の因果聯關の付け方或はその素材の選擇といふ點になると兎角はつきりしないところを生ず

る。ともあれ分析者自身がかうしたことを意識しない場合までも含めて、選擇といふことには既に一定のポリティカルな判斷が明確に豫定されてゐると私には考へられるのです。

社會的な立場に立つてといふ先程からの有澤さんの第二の觀點といふものは、私並みに考へますと、このカウザリテートの問題になると思ふ。それで勿論計量的な考察といふものゝ重要性は益々大きくなつて來ますが、それは現象の因果聯關を辿るといふ全體の枠の中の問題の如何に依つてそれぞれ違ひませうが、その中に僕は場所を與へられるものだといふふうに思ひたい。従つて重要なのはその計量が益々エグザクトになつて行きながら而も全體の枠が絶えずそこで反省されて行くといふことでなければならぬと思ふ。それ故に計量だけに焦點を置くエコノメトリックス的な立場とでもいひませうか、あゝいふものだけに終始して經濟現象の分析が完了したと考へるならば、さういふ立場はそれ自體社會的な問題を寧ろ回避したといふ意味で、一つのポリティカルな立場だと私には思へる。しかしそれが社會的な枠、いひ換へますとカウ

ザリテートの枠と結付いた場合に初めて正しい計量的な考察の地位が與へられるんぢやなからうかと思ふ。

メンガーはその二つのものを併立して述べて居りますが、之等二つの扱ひ方自身、相互の關係を反省すべき時期に来てゐるんぢやないか。さき程中山さんから一寸一、二具體的事例のお話がありました、さういふ場合にもやはりその枠の問題が意識されかゝつてゐるやうに思ひます。

#### 4 二つの立場は何を反省し、如何に統一さる可きか。

中山 今の大河内さんのお話と有澤さんのお話で問題が非常にハッキリして來たやうに思ふ。つまり二つの經濟學のやり方が併行して進んで行くといふよりも、理論の問題としては、やはり焦點は一つである。それが偶々從來の分析の具體的の過程について見ると、一つは相關的のものを數量的に擱へるといふ方法、一つはさういふ關係を寧ろ社會的の觀點から批判して行くといふ方法、かういふ二つの方法が採られたと

見られるが、その底には結局後者に重點があり、理論的にそれを掘下げて行くといふ所にこれからの經濟學の行くべき途が出て來る。

さういふやうなものを是認せしめる根據としては、第一の立場がいはゞポリティカルなものを持つてゐないといひながら、實はその底に或るポリティカルなものを豫定して分析が行はれてゐたといふこと。それから他方現象のカウザリテートの關係といふことをいはれましたが、寧ろ先程のお言葉に従へば社會的の意義といふやうなものを追究して行かなければ、研究が單なる數字的の研究に終つて、その社會科學的の意味がハッキリしないといふやうなことが段々見えて來る。さういふ意味で前の立場の反省が經濟學に於いて占める地位を次第に明瞭にして行きつゝある。それに従つて一つのものになつて行く傾向があるといふ點で、私が先程申上げた第三といふ形容詞は少し拙かつたんですが、兎に角さういふ問題を考へる一つの地盤が出來つゝあるといふ點に於ては一つのサポートが得られたものと思ふ。

たゞこの場合かういふ風な事が考へられる。今までの社會主義經濟學の持つてゐた

強さといふものは何んといつても客観的な分析といふ地盤があつたといふことである。單に意欲されたものとか、或は希望されたものといふやうなものを正面に出して行かないで飽くまで客観的に基礎付けて行くといふところにその強さがある。それぢやさういふ社會主義的な客観的な地盤でその理論が完成してゐるかといふと、實はマルクスにしても何にしても今までは寧ろ數量的なさういふ研究までには展開してゐない。

だから數量的研究分析を段々發達せしめ、これを以て補つて行くことになれば、いまはれた社會的方向による經濟學の基礎が固められて来る。さうなれば前の立場については社會的な觀點が反省され、後の立場については理論的な地盤がもう一度反省される。かうして二つのものゝ基礎になつてゐる理論的な地盤といふものが一つのものとして出て来る機會があるんじゃないかと私は考へます。

そこで社會的な觀點に伴ふ一つの缺點は何んといつてもさういふ觀點に引張られて客観的な事實の分析といふものが逃げてしまふといふ點にあると思ふ。

ゾンバルトが一九四一年のシャハトの記念論文の中でマルクスについて次のやうに述べてゐる。マルクスが資本主義經濟をあれだけ鋭敏に分析し得たといふのは、動機としては確かに資本主義といふものがマルクスにとつて謂はゞ歪められたものと考へられたからに違ひない。又労働者の利益といふ立場からいへばかういふものは打つ潰してしまはねばならぬといふ敵愾心があつたに違ひない。しかしその敵愾心をその儘出さないで、その大きな意味を生かす爲めに客観的に資本主義經濟を眺めてそれに徹したといふところにマルクスの魅力がある。それはまさに學問としての客観的な立場の強さだといふやうなことを言つてゐます。

さういふ意味に於ては社會的な方向を持つた今後の經濟學は、計量的な客観的な事物の分析をもつと強く取入れて行くといふ立場が出て來ないと、その理論の強さが出て來ない。その意味で第一の社會的な基礎の立場が反省されると同時に、その結果がカウザリテートの分析の方にもつと利用されて來る。それが私の考へてゐる共通の地盤に立つ分析といふ意味です。

## 5 二つの経済學に共通の理論概念が何うして出來上るか

森田 一寸質問したいのですが、今の經濟關係の計量化といふ場合、その量的の要素は自然科学の場合と違つて既に社會的な制約を持つたところの經濟學である。例へば經濟全體に關する場合では資本主義經濟下に於けるところの經濟量を取扱ふことになるでせう。ですからさういふ場合の計量化された經濟關係といふものから、社會的の限定を取除いて、いはゞ純粹經濟的關係といふものを探し出すことが出来るものかどうか。これを一つお伺ひしたいのです。

有澤 實はそれについては僕も同じ問題を持つてゐる。つまり社會的意味を追究する立場に立つた考へ方に於て使ふ概念と、現代の經濟現象の中にある概念とは屢々一致しない。つまり分析の手段として使ふ概念が一致しない。しかも計量的に分析しようとするれば、これは與へられた事實だから、どうしても資本主義經濟に現はれた計數的表現を使ふ以外にない。數で分析をしたい、計量をしたいと思つても價格の數しか

ない。それが一つの問題だと思ふ。

中山 それは非常に大きな問題だ。その問題については僕はかういふ考へを持つてゐる。それは現在の經濟學で使ふ概念も、少くともこれが計畫經濟或は經濟の計畫化といふやうな方向に使はれるやうな道具に轉化するだらう。例へば今までマーシャルの使つて居つたナショナルディヴィデントといふやうな考へ方に對してケインズはキャピタルのインヴェストメント、セーヴィングといふやうな概念を使つてゐる。これによつて同じものを分析してゐるのであるが、マーシャルの場合のナショナルディヴィデントではいきなり政策に結び付かない。ところがケインズの場合のインヴェストメントとかセーヴィングとかはその儘政策に結び付いて來る。例へば利子政策或は金融政策にいきなり持つて行ける概念である。さういふやうな概念は恐らくその底に社會的な基準及び政策的な觀點を含んだ概念に自然に轉化してゐるだらうと思ふ。

唯その場合には、このやうに計畫的なものとして使へるやうな概念が自然的に發生してゐるに過ぎない。だからその點で社會主義的經濟學が今まで使つた資本とか勞働

とかいふ概念とギャップがあるだらう。しかしそのギャップは有澤さんの話の中に出たやうな理論の政策化といふ方向がもう一步進むことに依つて埋められる可能性があると思ふ。

現在の經濟學で使つてゐるやうな特にケインズあたりがいひ出したアグリゲート・コンセプト、あの概念の全部ではないが大部分は政策的に使へる概念に轉化してゐる事實だけは認められると思ふ。さういふ中に相關々係的な分析をやつてゐる概念といふものは初めから社會的な立場の概念とは全然性質が違ふと有澤さんはいはれる。私もそれは違ふことは認める。然し少くとも現在の經濟學の動向としては政策に結び付くといふさういふ社會化を通じて、一つのものにならうとしてゐる傾向があるといふことは指摘されると思ふ。

**大河内** 政策と結び付くといふことは強ち社會的な立場を意味することにはならない。全體としてはさうならないが、しかし少くともそれを入れる餘地は非常に大きい。例へばケインズの理論が出た時にあれば一體労働者の利益のものであるか、資本

家の利益のものであるかといふことが、アメリカの學界の問題になつた。さういふやうな社會的色彩をもつと政策に入れて、それを捏ね直して見るだけの研究は出來て來た。さういふ意味です。

それがもう一つ發展して行けばそれをアグリゲート・コンセプトからソーシャル・コンセプトに持つて行くいくらかの關係がある。さういふところで初めて資本主義的な理論と社會主義的な理論の根柢になつてゐる一つの理論概念、一つの共通の地盤で討議するやうな場面が少くとも開かれ得る。

**有澤** いまのアグリゲート・コンセプト、それがソーシャル・コンセプトに伸びるかといふと恐らくアグリゲート・コンセプトを作り上げた人自身ではソーシャル・コンセプトまで發展させ得ないで、別の者がそれを素材として使つてソーシャル・コンセプトまで發展させるんぢやないかと僕は思ふが……。

**中山** インデヴィジュアル・コンセプトに對してアグリゲート・コンセプトが對抗することになると、その人の意識如何に拘らずその書いてあるものをソーシャル・コ

ンセプトに結び付けて解釋することが多い。それを使ふ人もそれが政策にくつ付いてゐるといふ意味に於て若し多少でもさういふ意識を持つて居れば、自分でもそれを意識する筈である。さういふ可能性は充分ある。その意味で政策に結び付ける概念だからいきなりソーシャル・コンセプトとはいへないといふことは認めるにしても、その結び付きの可能性はそこに開けて來るんぢやないかと思ふ。

## B 批判的態度の立場から

### 1 二つの經濟學に共通な科學性と經濟學の連續性の問題

**中山** 資本主義經濟學と社會主義經濟學との一番大きな相違は、後者が現在の制度に對して批判的な立場を持つてゐる事だといふ考方がある。けれども資本主義經濟學といはれてゐる今迄の古典學派を中心とした經濟學、これもやはりその成立の時を考へると一つの批判的精神を持つてゐた。批判的精神で問題を取扱ひ得たのはリカー

ドの時代までゞ、その後の古典派經濟學は現存の社會體制の擁護に向けられてゐるものではないかといふやうな、社會主義的な立場からの批判もありますが、少くとも歴史的に見れば資本主義經濟學も社會主義經濟學も現存の社會體制に對する或る實踐的な批判から生れて來たといふ點では共通のものを持つてゐるのではないか。そしてさういふ批判的のものが何か心情的なもの、ロマンティックなものである限りは學問としてそれが非常に強いものとしては出て來ない。だから資本主義が出て來た場合に前の封建主義とか中世的ないろいろな體制に對して批判をやつて行くに際して、それが強い批判になつて行き得たのはやはり一つの科學といふ體系を採つて來たからである。資本主義が現實の社會に或る程度の實績を現はした時に、それに對する批判としてやはり科學といふ立場を採つたマルクシズム經濟學が生れて來たのは此の意味に於いて充分理由のある事だせう。

かう考へると二つの經濟學の根本になつてゐる科學といふものには、やはり一つの共通な要素を認めることが出來ないだらうか。つまり科學として或る時代の資本主義



經濟學とその時代の社會主義經濟學とはいつでも對立したもので妥協は出來ないだらう。然し若しこの次に資本主義に代はるやうな第三のものが出て來た場合、その第三のものが社會主義を假に攻撃して行くといふ立場に立つたとすれば、やはり資本主義の科學、社會主義の科學を超えて或る意味に於いて共通の、互ひに批判し得るやうな科學性を持つた基礎でそれを批判して行く。その次に社會主義がもう一步展開した共產主義といふ體制の段階を假に考へるとすれば、その第四の段階が第三の修正社會主義に對して新しい科學的武器を必要とする。その武器は學問として流れ出て來てゐる所の科學性といふもので以つて闘はれて行く。

さういふ意味に於いて經濟學といふ學問それ自體を通じて流れてゐる一つの——これは科學一般の話になるんでせうが——人間意識の合理性の促進過程といふやうなものがある。さうするとその中には一つの時代に並存してゐるものでお互ひに到底融和し得ないやうなエレメントを持つてゐるかの如く見えるもので、しかも科學として取り上げて行くといふ點で共通のものを考へることが出來るんぢやないか。つまり理論

の共通性といふやうなものを認めたいのです。

更にこの科學性といふことにはそれを掴む見方の技術といふやうな點が一つ入つてゐるんです。技術といふ言葉は適當かどうか知らないが、兎に角經濟現象を掴んで行くつて理解して行く一つの道具といふか武器といふか、さういふものゝ連続性といふものは、私は資本主義及び社會主義何れの場合にも十分に認めることが出來ると考へてをります。

沖中 たしかに社會主義經濟學も資本主義經濟學に於て見出された法則を繼承し寧ろそれを基礎としてゐると見られるでせう。それを基礎としながら諸現象にそれを適用して行く形をとつてゐるんぢやないかと思ふ。だから例へばリカードにしるマルクスにしる、それ以前の所謂古典派經濟學がなければあのやうな理論の完成は不可能だつたらうと考へられますね。

高橋 いま中山さんのいはれた科學的といふ場合に、科學的といふものゝ考へ方が問題となり得る。リカードなんかの場合には今の制度が與へられたものといふ風に考

へて、その制度の下に於ける法則を見つけようとする。さういふ意味では自然科学的な方法を探つた譯で、それが科學だとされてゐる。他方、社會主義經濟學は寧ろ經濟の制度は變はるものだ、歴史的なものだといふ考へ方から問題の焦點が社會關係の分析に集中され、それを科學だと考へ、文化科學、或ひは歴史科學といふ風な意味で科學だとする考へ方があるんぢやないか。

かういふ風にそれぞれの立場から科學的であらうとしながら、しかもそれぞれの考へてゐる科學といふ意味が相當違つてゐるといふ氣がするんです。それがどの程度にお互ひに結びつきあふだらうかといふ事が問題でせう。

**山田** 僕もそれと同じやうな考へを持つてゐます。中山さんは一つの經濟社會に對して擁護する立場と批判する立場といふものが考へられるが、しかし兩者ともに科學的に擁護し科學的に批判するといふ意味で科學的に共通のものがあるといはれる。しかしその一つの社會を擁護的に見るか、或ひは批判的に見るか、これは二つの分れた立場といふのではなくて、やはり科學的にどちらが正しいかといふ問題を殘してゐる

んぢやないかと思ふんです。

今日なら今日の日本の場合にそれがはつきり擁護的に行くものなのか、批判的に行くものなのか、或ひはまだ目先がはつきりしてゐないといふやうなことを本當に掴むのが正しいのか、一つの經濟社會にやはり二つの立場があるんだといつて話を打ち切るのではなくて、そこにまだ科學的なものゝ追求が必要ぢやないかと思ふのです。

**中山** 最後の科學的なものゝ追求が必要だといふ點は全く同感ですが、いまの私の話したことに對する追求は少し違つてゐる。それは僕はかう思ふんです。資本主義經濟學といふものが科學性を獲得したのは、それが批判的である限りに於いてである。若しそれが現在批判的になつてゐないとすればもう科學性は失つてゐるでせう。現在の資本主義經濟學といはれてゐるものも非常に批判的なものを持つてゐる。例へばビグーにしても或ひは最近のハンセン、カレツキにしても、もし現存の經濟社會を大體に於いて完全なものともみてゐるとしたならばあゝいふやうな經濟學は出て來ない。やはり批判的なものを持つてゐるから古典學派の傳統を繼いで行くことが出來ると思ふ

んです。

たゞ私の申上げた科學性の所謂連續性といふものは、封建主義に對して資本主義が出て來た場合にその批判を以つて生れて來た資本主義經濟學の科學性といふやうなもの、資本主義の中に生れて來た新しい社會主義經濟學が持つてゐる科學性との間には決して連續性がないのではない。勿論實際の上では非常に違つた事實が生じ而も新たに重要なエレメントが入つて來る所から社會主義の立場が成り立つ。この新しく入つて來たエレメントに重點を置くとき全く違つた性質のものとみられる。しかしその違つた性質の問題をそれぢやどういふ風に取り扱ふか。それは恐らく資本主義經濟學がなかつたら社會主義經濟學はあの形では出來なかつたといふ點で連續性を認めねばならぬ。その連續性は資本主義經濟學と社會主義經濟學とを對立させてゐる場合に殆んど無視されてゐるやうな連續性ではあるが、これは僕は學問の世界の問題としてはもう少し重要に考へていゝんぢやないかと思ふ。

そこで一足飛びに話を持つて行くと、理論的な根柢として社會主義經濟學の底にあ

る一つの理論といふやうなものと、資本主義經濟學の抱いてゐる理論といふものとの間に、謂はゞ一種の歩み寄り、少くとも共通の地盤で話が出来、その地盤の構成といふやうなもの、これが今後の經濟學の一つの課題になるんぢやないかといふことを最初に還つて申上げたわけです。

## 2 技術的批判と歴史的批判との交渉

——綜合としての交渉か、繼受としての交渉か——

中山 此處でもう一步突込んで疑問を提出したいんですが。ピグーは現在の自由資本主義社會の缺陷を指摘し批判して居ります、此の種の批判と、社會主義に於いて現代の經濟制度を批判するといつてゐる場合の批判とは一體何處が違ふか。

大河内 例へばケインズの場合の批判は技術的な批判ぢやないでせうか。處が社會主義經濟理論が批判的だといはれる場合の批判の意味は寧ろ技術的の問題を超えて制度的なものだと思ふ。従つてケインズの場合は經濟社會は歴史的な法則を持つてゐる

といふ認識がない。それに對して社會主義經濟學の場合にはそれが寧ろ前面に出て來てゐる。

中山 處がケインズの場合に果して歴史的な感覺が全然ないかどうかといふ事には疑問があると思ふ。そこが問題だ。

大河内 この歴史的な感覺の意味が問題ですが、ケインズが歴史的ないろいろのデータを蒐集して巧みに彼の理論の中に押込んでゐるといふ點を私は決して否定しない。恰度シュムペーターが非常に澤山のデータを蒐集して理論を作り上げてゐるのと同じだと思ふ。しかしこのことはケインズやシュムペーターが資本主義經濟の歴史性の認識の上に立つてゐるといふことは別問題ではないでせうか。

中山 それは一應さういへるが、そこで僕の聞きたいのは、その場合に歴史的のさういふ一つの批判、假にその立場を歴史的批判の立場といひますと、さういふ立場と技術的——これは理論的といつてもいゝと思ひますが、さういふ技術的な立場と交渉はないか。その交渉如何といふ問題です。

僕のさつきから出してゐる問題は、その交渉を僕は或る程度認めるといふことが、遡つていへば經濟學が一つの科學として資本主義と社會主義の時代を通じて出來上つてゐるといふことの中に含まれてゐる問題だ。その交渉といふものが全然無關係なら經濟學といふものは科學としてはもつと違つた形で發達をなすべき筈ではないかと思ふ。とにかく現在の經濟學の問題としては、ユティリティ・ファンクションの統計的の確定といふやうな所から入つて、現在我々の手にしてゐるやうな所得なり、賃銀なり、雇傭なりの數字を集めて一つの經濟社會を作る所迄來てゐる。それは殆んど技術の問題です。その技術的問題が今度はその經濟社會を考へる立場の上に非常に大きな影響がある。

例へば計畫經濟といふものは自由資本主義經濟がまだ發達の初期の時代にあつて國民所得も確定出來なければ雇傭の計算も出來ないといふやうな條件の下では恰度ミーズスが問題を取上げたやうな形で堂々廻りに陥る。處が多少技術の手段が確立されて來ると、尤も今日の狀態ではまだ無理ですが、少くとも或る可能性がそこに浮び上つ

て来る。計畫のさういふ可能性を數字の上から得て来るといふことが、今度は計畫經濟に持つて行く或る一つの批判的立場に根據を與へるといふやうな内面的の一つの關係を持つて来る。

これは私は相當に重要視すべき問題ぢやないかと思ふ。例へばマルクスが資本主義社會での労働の地位を考へて見て、これは不當だといふやうな點から資本主義批判を必要とする。その場合に若しリカードあたりの資本主義社會の分析の道具が揃つてゐなかつたらあれだけの分析は出来なかつたらう。同じやうな意味で今度新しく出て来る批判的立場が社會主義計畫經濟に行くとするれば、その批判主義は今の理論的統計的な分析の持出して来る成果といふものなしにはそれを積極的な意味で科學的に築き上げて行くことは出来ないんぢやないか。さういふ意味でいへば技術的と歴史のとどちらの批判についても一つの共通の問題といふか、或ひは少くとも相交渉する問題があるでせう。

勿論技術的な分析を重んずる方では歴史的な批判が或る場合には後退し、歴史的批

判を重んずる方では技術的の批判が時としては後退する危険性がある。かういふのが現在の經濟學の實情ではないか。今後の經濟學の行く途としては、この二つの各々の特徴を認め乍ら、しかもやはりお互ひに交渉する部面といふやうな問題を問題に行くんぢやないか。かういふ風に考へてゐるんです。

**大河内** それはよく分りますが、その場合の技術的の操作といふものは今日では非常に完璧だといはれるやうな状態まで精密化してゐるわけです。しかしそれは決して社會主義的經濟理論が經濟社會の歴史的な認識に立つての批判性を濃厚に出してゐるといふ、さういふ立場に接近してゐることを一寸も意味しない。寧ろさういふ社會主義的な經濟理論の歴史的な立場といふものを一層内容豊富にする爲の素材を提供してゐるのではないか。社會主義理論經濟學といふものを一層強固に又實踐的に、又適用の可能性を一層豊富にするための素材を提供するだけのことではないか。

さういふ意味で交錯するといへば正に交錯するでせう。然し一方の場合には技術的の操作が比較的濃厚で他方の場合には歴史的批判的態度が比較的濃厚だといふ、この

兩者の相對的な程度の差といふ意味での歩み寄りがあるとは思へない。相違は依然として根本的なものがある。

資本主義的な經濟社會の枠の中で技術的操作が非常に精緻な成果を擧げて來た。その成果は社會主義經濟學といふものが本當に實踐的な計畫經濟のための理論たらんとすれば、當然取つて以つて活用するといふ素材になる筈の關係ではないか。その意味での交渉は私は勿論認めるんですが、此事は資本主義經濟學と社會主義經濟學とが繼受の關係にある事を意味するのではないか。これは單に理論だけの問題でなしに一般的にいつて、例へば資本主義社會の生産力の發展といふものゝ一定の遺産を持たなければ社會主義的な計畫經濟の遂行は不可能だといふ關係にも具體化されて行くでせう。

或は又資本主義内部で段々成熟して來る主體的な、例へば勞働のエトスといひませうか、さういふものが或る程度湧き出てゐなければ結局社會主義經濟の建設の擔當者としての主體性そのものが見失はれてしまふ。主體的なエトスの側面でも資本主義から生じた結果を社會主義そのものが繼受する。しかしこれは素材として生産力を繼受

し、エトスを繼受するので、繼受した受入體制そのものはまるで違つた足場に立ち、違つた理念を持つてゐると思ふ。統制理論に於いても同じやうな關係があると思ふ。ですから交錯してゐるといふことは認めますけれども、兩者が相對的に何か近寄つて來てゐる、建前上近寄つて來るといふ風にはどうも私は納得し難いんです。

## C 階級の立場から

### 1 社會主義經濟に於いても今日の意味の經濟學はあり得るか

高橋 此の問題に關聯して一つ質問を提出したいんです。さつき大河内さんが問題を解決することの一つのポリテイカルな立場といふことをいはれ、又第三の立場の可能性といふやうな御話もありましたが、一體資本主義がそれぞれ何等かの意味で階級的なものであるとして、それでは經濟學はいつでもさういふ階級的な形でしか成立しないと考へるかどうかといふ問題です。これは第三の經濟學なるものがあり得るかど

うかといふ問題にも係はることゝ思ひますが。

**森田** その點を私も中山さんに質問したんです。

**中山** 二つの階級があつてそれが常に存在するといふ形の場合、例へば現在の社會主義といふ立場は資本主義を前提として成立する。又現在の資本主義といふものはその中に既に生れつゝある社會主義的な傾向に對抗するものとして存在する。此の限りでは經濟學は階級的である。處が社會が完全に社會主義になつた場合、或は完全に資本主義で一抔も社會主義的なエレメントがないといふ様に、全體が何れか一方になつた場合の經濟學はもはや階級的な立場にあるとはいへないと思ふ。

そこで假にソ聯といふやうなものが労働者一黨の天下で、労働階級だけの一つの經濟社會といふものが完全に行はれるとする。ソ聯はその他に對外關係といふ問題を持つてをりますが、それをソ聯一國の場合と考へて完全に労働者中心の社會主義社會になつた場合、そこに存在する所の經濟問題を取扱ふ經濟學、これは階級經濟學ではないでせう。

現に今のソ聯の場合は一國社會主義といつてゐる位だから、假にさういふ場合が成立するとして、そのソ聯には經濟問題はないかといふと僕はあると思ふ。さうすると階級を離れた經濟學はあり得ると思ふ。

**有澤** 中山さんは經濟學といふ一つの言葉を使つてゐるが、君のその場合の經濟問題といふものは現在の資本主義下の經濟問題とは性質が違ふだらう。

**中山** その性質が違ふといふのは、資本主義下の經濟問題の社會關係といふ所に問題の重點がある。然しそれぢやソ聯の一黨天下の下にはさういふソーシャルな經濟問題はなにかといふと違つた形である。例へば生活の自由、エンプロイメントの移動の自由の問題、これは自由といふ形では出て來ないが、さういふ意味での問題は出ると思ふ。

**有澤** それはわかる。資本主義そのものとしては決して新しい問題ではなくても、ソ聯に於いては新しい問題となるやうに、資本主義に於いてはその問題はそのものとして現はれて來ないで、階級との關係に於いてのみ現はれる。だからソ聯の問題と資

本主義國の問題とは一見同じエンプロイメントの問題とはいひながら、その問題の性質が違ひ現はれ方も違ふ。一方は階級との關係なくしては考へられない問題である。中山 さうすると此處でかういふ問題が出て来る。凡そ經濟學はさういふ階級との關係なしには考へられないものかどうか。

有澤 從來我々が言つてゐた經濟學といふものと、ソ聯の階級なき社會の經濟學——若し假にそれを經濟學と呼んだ場合に——それが同じものかどうか。人によつては經濟學は資本主義でおしまひだといふ。しかし人間はやはり食物を食べて生きてゐるといふことに於いては資本主義國でもソ聯でも同じだ。しかしその食物の獲得の仕方といふ事になるとまるで違ふ。食物を食べて人間が生きてゐるといふ問題が同じだから兩方とも同じ經濟問題だといふわけには行かない。

中山 それはさうだらうが、僕が言つてゐるのはさういふ基本的な事實が一つだといふのでなくして、ソ聯がソ聯として階級的な關係を對内的に持たないとしても、そこで考へる問題は單に食ふとか職業を持つとかいふ問題ではなく、その中のプライス

の問題、地域の問題等いろいろある。これらの問題は資本主義經濟で現はれる形ではないが、やはり一つの問題として成立する。その問題を解決する爲の經濟學は必要であるし、現に存在すると思ふ。

そこでこの二つの經濟學の間には全然繋がりが無いものとして、例へば君のいはれたやうに經濟學はリカードで行止まりで後は臆説に過ぎないといふ考へ方、經濟學をさういふ風に理解して行くか。それとも一國勞働天下になつた場合に於いてもなほかつ經濟學がその問題を以つて前進して行く一つのサイエンスであるかと考へるかどうかといふことが根本の問題だと思ふ。

その二つの間に相當大きな違ひがあつても、階級のない社會主義の世界で出來上る大きな新しい經濟學といふものは、現在の資本主義經濟學、資本主義の中に發達する經濟學とは決して無縁ではないと思ふ。

有澤 無縁ではないが同一物でないことも明かである。その性質を明かにするといふことが、僕をしていはしむれば、社會主義的立場に立つてゐるからそれが出來るん



だと思ふ。

中山 それは認める。二つの内容的に異質的な経済學が、今の資本主義自體の中に現はれて來る傾向がある。それからソ聯社會主義の中でも資本主義的な技術を採用される。かうして兩者の歩み寄りが段々進んで來る。事實それが進みつゝある。勿論スミスな途ではないだらうし、或ひは相互に背反して二つの全く別な形を採るかも知れないが、内容的には一方が他方に移る地盤を作つてゐると思ふ。

有澤 それは資本主義に於いて發達した技術をその儘採り入れることはあるが、それと同じやうに經濟學的思考に於いても採り入れられる部分があると思ふ。資本主義時代に於ける經濟學と社會主義時代に於ける經濟學との違ひを考へるならば、それは技術的な面では同じだらう。だから例へば統計の數字の取扱ひ方など、これが客觀的な考へ方であれば、さう違はんとと思ふ。然し社會的な意味の追求に於いてはまるで違ふだらう。

## 2 資本主義經濟學の中で、階級と無關係の部分があり得るか。

中山 もう一步進めるとかういふことがいへる。例へばベームあたりが考へる利子といふものは、一國の生産資源を考へて、その資源をどういふ風に使ふのが社會的に一番利益かといふ問題だ。その問題は社會主義經濟に於いて最も純粹な形で出て來る筈のものだが、資本主義社會に於いては金利關係やその利子を取得する資本家階級によつて歪められてゐる。

だから一口に資本主義經濟學と言はれてゐるものの中には、社會的な見地を見逃してゐる爲に全然捨てらるべきものと、さうでなくて社會主義の場合にも残り得るものがある。さういふ生き残るものとさうでないものとが所謂アグリゲイト・コンセプトの分析によつて段々はつきりして來つゝあると考へる事は出來ると思ふ。

ベームの様に純粹に考へた利子のやうなものは資本主義下の統計で擱へようとして、現在の統計資料をどんな風に使つて見ても出て來ない。さういふ點を考へて行く

と資本主義経済の中に階級とは無關係なエレメントがあることを認めていゝと思ふ。だからその意味で資本主義経済といふものには階級關係と共にその生命を等しくする面と、さうでない面とが兩立し得る。

**大河内** 私はベームの場合に於いて、社會主義になつた場合に初めて純粹に現はれるやうな問題を階級社會の前提に立つて作り上げたといふ點に寧ろ問題があると思ふ。イデオロギー的にいへばさういふ階級的社會の中では純粹に現はれ得ないものを何故取出したか。此の點から見て、やはり社會的な立場といふ最初の問題から検討すれば、非常に大きなものを逃してゐると考へるのです。

**中山** 現在では寧ろその點だけが考へられてゐるんぢやないか。

**有澤** 今の所はそれでいゝぢやないか。社會主義の世の中になつた時に社會主義経済といふか、さういふ意味のものが資本主義経済の中から拾ふべきものを決めるべきで、現在資本主義経済の中でそれを強調しても役に立たぬ問題だと思ふ。

**中山** 一般には役に立たないかも知れないが、同時にさういふ問題が資本主義と社

會主義を貫いて存在するといふことを、經濟學者は意識する必要があると思ふ。階級關係を抜きにした經濟理論を考へることは無意味だといふ立場を採れば別だ、然しさうでないとするれば——といふのは資本主義自體が昔日のものではない、變つて來てゐる、變つて來る間には技術的には社會主義的なものを探り入れる。それを前提とすればさういふ理論を考へるといふことは無意味ではない。さう考へれば資本主義の發展に應じて資本主義經濟學が變つて行くといふのはこれは發展である。此意味から此問題を意識するといふことはやはり非常に必要ぢやないかと思ふ。

**有澤** 我々には必要だが一般には餘り必要ぢやない。つまり危険がある。資本主義經濟の下にある利子なるものは君のいふ通り社會主義のものとは違ふ。つまり概念からいつても全く違ふものだ。その社會主義經濟でしか考へられない様な利子といふ言葉を使つて現在の資本主義下の經濟現象を説明しようとしてゐる。然し今日利子といへば我々が現に見てゐる利子しか考へられない。

**中山** 經濟學に於いては少くともさうではないと思ふ。ベームの言つてゐる利子は

現在銀行が預金者に拂つてゐる利子の意味ではなく、現在の利子といふ現象の根本になつてゐる迂回の程度を測るものとして考へてゐる。

有澤 それでは愈々以つて今日の現象としての利子とは違ふ。それを同じ利子といふ言葉で言つてゐるんだが……。

中山 それは今日の利子現象を説明するが爲に、もつと根本にある理論的利子を假にさういふ言葉でいひ出したのだが、その理論的利子と現象としての利子とは嚴密に區別してゐる。

有澤 區別はしてゐるだらうが、理論的利子は實際には計量出来ない。出来ないものを經濟學者は考へてゐる譯だが、それは一體何を考へてゐるのかと僕はひたいのだ。

### 3 階級性を離れた經濟的計量は可能か、——統計の客觀性の問題

中山 ベーム流の利子といふものは、現在の統計ではどうしても擱へられないが、

さういふやうな利子現象に近付かうといふ努力はしてゐる。

有澤 然しそれは出来ないことだ。

中山 さうでもない。例へばイギリスに於いては利子は二分以下に下つたことはない。その下らないことを理論づけることは出来る。それを非常に大雜把な形でいつたのが例のカッセルだ。つまり人間の生命を平均して三十年と見て、それで資本が投下される場合の利子は大概三分だといふことを勝手に考へたが、それは充分ではないにしても一應は理論としての基礎を持つてゐる。

森田 さうした社會的の制約をもつた數量から假令どういふ方法によるにしても純粹經濟學的な結論が出て來るでせうか。

中山 それは研究だけとしたならば出て來る。例へば貯蓄といふものは社會的の制約を澤山持つてゐる。しかし現實に社會で一年間に生産されたものゝ中で、使はれなかつたものが貯蓄だと定義すれば客觀的數字は出る。

有澤 それは出るが、その時の状態が理論的には動かんものとして出て來ると考へ

なければならぬ。今迄の結果を考へると理論的には時間を抽象してゐると考へられ  
る。

**中山** さういふ連續を考へてゐるのではない。一年間に生産されたものゝ中、現に  
使はれなかつたものは明白にわかる。つまり一年間の貯蓄は明白にわかる。従來の貯  
蓄の定義を考へると、それは現在の消費を節約して將來の消費財を多くする爲にやる  
とか、子孫の繁榮の爲に残したものであるとか、或ひは銀行の預金利子を稼ぐ爲だと  
か、さういふ動機に結付けて考へる。さうすると客觀的のものは絶對に出て來ない。  
さういふ利子論でゆくとロックフェラーは節約したかといふことになつて解決がつか  
ない。處がケインズ流のアグリゲート・コンセプトで行くと凡そ社會が使はなかつた  
ものが貯蓄だ。

**有澤** それはその間に於いてその状態が不變だと考へてゐる。

**中山** 君のいふ意味はその擱んだ貯蓄をどう使ふかといふことで、擱んだことを前  
提とするのは同じだ。

**有澤** 同じぢやない。その社會の構造が違へば全く違つたものになる。

**中山** その時にはその時の貯蓄が出る。それだけの數字については客觀的だといへ  
る。それをどう使ふか、例へばそれを使ふに従つて將來の資本形成をどういふ風にや  
つて行くかといふことになればまた別になる。

**有澤** それよりも寧ろ客觀的に擱まれた數字といふものゝその客觀性自體が一定の  
社會關係を前提にしてゐる。

**中山** その意味ではそれは凡ゆる社會的エレメントの影響を受けるので、決して獨  
立ではないといふことは認める。

**有澤** それを獨立であるかの如く取扱ふ。その前提を無條件に承認して計量を行ふ  
ことが、問題を回避してゐることになる。

**高橋** それでは凡そ計量的にやることはいつでも回避するといふことになるんです  
か。

**有澤** それはさうぢやない。例へば利子が二分以下に下らんといふ説があれば、そ

れはどうしてかといふ關係を明かにすれば回避ぢやない。回避といふのは無條件的に前提してさういふ方面には足を踏み入れんといふ行き方です。

**中山** それは出て来た客觀的の數字の解釋の問題で結果自體の問題ではない。

**有澤** それと同時に、單に解釋ばかりでなく、一定の前提の下に立つてその變化を計量する以上、その後で分析をしなければならぬ。

**高橋** と同時に何を計量化するかといふ問題だ。

**有澤** それによつて回避するかどうか決まる。

**中山** その場合に何を計量化するかといふ問題について回避してゐるといふが、回避しないエレメントが段々殖えつゝある。もつと強くいへば回避出来ないやうなセイディングとかインヴェストメントとかいふ概念が使はれて来る。それが段々正面に現はれて来て回避は出来ない。その反省は應て第二の問題に繋つて行く。

## V 今後の經濟學に於ける倫理の地位

### A 資本主義經濟に於いてもヒューマニティーの色彩が濃厚になつて来たといふ問題

**沖中** 今度は問題を少し變へて倫理と經濟學との關聯についてお話し願ひたいのです。今後の經濟學はたゞポジティブ・サイエンスとしての學問といふことの他にも少し倫理的な要素の入つたものになり得るか否か。アダム・スミスに於ける倫理的色彩はハッキリしてゐた、處がその後一應姿を消してしまつたやうに見えますが今後その點はどうなるだらうかといふ問題です。

#### 1 將來の計畫經濟ではヒューマニティーが前面に出て来る

**大河内** 經濟生活全體が一定の計畫によつて統括し得るといふ考へ方、これは從來

もあつたし今後益々その考へ方は強くなつて行くと思ひます。又その上に立つて一定の新しい經濟學の方法といふものもうち樹てられて行くと思ひます。

一般形式的にいへば計畫性といふものは必ずしも倫理の問題と結びつくものではないが内容的にいへばそこにやはり倫理の問題が入つて來てゐると思ふ。唯從來はその計畫性が何によつて内容を充たされたか。計畫性的の着想構想が何によつて觸發されど來たか。最も早い時期、例へば十九世紀の終りから二十世紀にかけては獨占體が登場して來たことによつて或る點まで實際的に計畫性の問題が自覺されて來た。この場合には昔から引き續いて來た倫理といふ問題とは對抗的な關係にある一つの狙ひがある。その次の段階には寧ろ戰爭といふ事態に照應して軍需生産力の擴充、さういふ意味で計畫性の問題が強化されて來た。これは或る程度まで經濟の計畫的な運營といふ問題、その上に立つての方法的な反省といふものを刺戟したけれども、この場合にはやはり計畫性といふ形式に内容を與へる事柄自體がこの戰爭といふことに直接聯關を持つた。その限りでもやはり倫理といふ問題では寧ろ對峙せられるやうな條件の下に

問題が提出されたと思ふ。

この第一の場合にも第二の場合にも經濟生活を營む國民一般のウエルフェヤーの問題は寧ろ犠牲に供せられて、それと對峙對抗せられるやうな關係から計畫性への反省があつた。今後はそれらの二つのものに代はつて、これは希望も入りますけれども、ウエルフェヤー自體が第一義的な計畫性的着想の内容を形成して來やしないか。さういふ意味で今後計畫性といふ問題の内容の裏付けとして、ウエルフェヤーとの關聯を持つ倫理或ひは道義といふ問題が出て來る筈だと思ひます。さうしてマーシャルが經濟學は一面では人間を研究の對象とするといふ、その意味での内容を持つて來やしないかと思ひます。

## 2 資本主義が發展すればモラルの色彩が強くなるといふ問題

沖中 實際の企業家の企業經營といふ面から見て、純粹に經濟的の採算だけから賃銀とか雇傭・解雇とかいふやうなものが實際上決められてゐるのか、或ひはそこに何

等かヒューマニティーといふ要素が入つてゐるのでせうか。

**黒澤** 資本主義に於いても現實に倫理的な要素が入つてゐると思ひます。資本主義には資本主義特有のヒューマニティーといふものがあつて、それが資本家の行動を或る程度抑制してゐる。敢へて無視しようとするれば無視出来るけれども、現實に個々の企業家をとつて見れば大きなブレーキにはなつてゐる。例へば現在の大會社は何千人何萬人といふ労働者を抱へてゐるが、これを馘首する事は出来ない。全然生産に使はない多數の労働者を抱へて賃銀を拂つてゐるといふのは、企業家その人が持つてゐるヒューマニティーから來るのではなくて、資本主義經濟の中の一種のブレーキとしてのヒューマニティーがそれをさせないとも見られる。その場合に飽く迄資本主義的なヒューマニティーとして限定的に考へるべきであるが、資本主義に於いて全然ヒューマニティーがないといふことは言へないと思ふ。

**沖中** 企業の實態を分析された結果に於いてさういふ傾向が強くなつて來たでせうか、弱くなつて來たでせうか。

**黒澤** 實際の計數からいへばその傾向は非常に強くなつてゐるといふより他はない。精神的には話は別ですが、統計的にはそれが強くなつてゐる。その意味についてはいろいろの説明があり得ませうが、所謂厚<sup>ウエルフェア</sup>・費用の上昇傾向が一番強い。つまりウエルフェア・コストが結局物價の騰貴に比例するといふことなんです。我々がとつた經營統計では所謂生産手段のコストであるマテリアル・コスト、マシン・コストのカーヴに比較してウエルフェア・コストのカーヴが非常に高い線に上がつてゐる。それはつまりさういふブレーキ的作用ぢやないかと思ふんです。この様な傾向は一面に於いては日本の場合は資本主義が却つて弱くなつて來てゐるといふ風にも見られるんですが……。

**大河内** それは黒澤さんどうですか。ウエルフェア・コストが上がつて來たといふことは、資本主義が弱くなつて來てゐるとも考へられるが、日本の場合は寧ろ資本主義が漸くノーマルな状態になつて來たとも考へられませんか。

**高橋** さういふことにならなければやつて行けないやうな資本主義になつて來たん

でせう。

黒澤 そんな風にも見られる。

高橋 それは或る意味からいふと大河内さんの言はれたやうにノーマルといふ所までは行かないでも、とにかく資本主義らしい資本主義になつて来たといふことはいへるでせう。

大河内 その點で疑問を感じるのは、例へばマーシャルが『經濟騎士道の社會的可能性』の中で、イギリスの産業界に對してウエルフェヤー・ワークを大いにやらなければならんといふことを説いてゐる。その根據としてイギリスも十九世紀以來は富を世界各所から集めて經濟的餘力が集中されて来たといふ事を強調してゐる。その餘力の上に我々が立つてゐる限りはウエルフェヤーに大いに意を用ひることが我々の義務でもあり、我々として可能だといふことをいふわけです。

處がそれはイギリス本國自體についていへることで、その背後には印度もあり南阿もある。その足場の上に英本國のウエルフェヤーが漸く成り立つ。それが私は資本主

義の實體だと思ふ。だから世界經濟全體として計數をとつて見て産業家のウエルフェヤー・コストがずつと上がつてゐるかどうか。これには甚だ疑問を持つわけで、資本主義の發展と自制が實はこのウエルフェヤーの面で現はれてゐるんぢやないかと思ふ。さういふ制限をもつと克服して、もつと廣い意味で一體ヒューマニティーといふものが現はれ得るものかどうか、それが疑問なんです。

高橋 と同時にいま大河内さんがいはれたやうな場合は個々の企業としての問題である。全體としてのイギリス經濟は最近だんだん行詰つて来たといふやうな面からすれば、イギリス全體としての資本主義の問題としては又別な問題があるといふやうな気がしますが。ヒューマニティーの問題とか厚生の問題とかは個々の資本家の問題といふよりは資本主義國なら資本主義國として出て來るといふか、或ひは採り得べき問題ぢやないでせうか。

大河内 僕もさう考へたい。けれどもさう考へたとして、やはりさつきからお話が出たやうにヒューマニティーといふやうな雰圍氣が強くなつて來てゐるといふことは



いへるやうに思ふ。例へば失業問題でエキスパートのビヴァリツヂの『アンエンプロイメント』中での扱ひ方を見ますと、やはり失業者の救済といふ問題は結局産業の救済だ、要するに失業救済といふことはイギリスの資本主義産業そのものを救済するといふことを前提にもし、さういふ効果もあるといふ扱ひ方です。

處がそのビヴァリツヂがそれ以後に書いたものでは、調子から見ると一種の道義といふ問題が入つて来て居りまして、完全雇傭に持つて行くといふことは産業の問題よりもやはり一種の國民經濟としてのモラルの問題だといふやうな調子が強くなつてゐる。前に失業問題を書いた時と比較すると、扱ひ方は同じだが全體の雰圍氣にはヒューマニティーの色彩が非常に濃くなつて来てゐるやうな印象を受けてをります。

### 3 資本主義の矛盾の表現としてのヒューマニティー

高橋 資本主義がその發展に従つて最初に豫想せられたやうな形とはだんだん變はつて來たといふやうなことが問題になるんぢやないでせうか。

沖中 それはつまりかういふ事ですか。自由主義の上に資本主義が發展して來るといろいろの矛盾が出て來る。例へば勞資對立の激化とか、獨占資本の發展による經濟の自律性の喪失とか、經濟の發展力の停滯とかの矛盾です。他面資本主義といふものが今日迄發展して來たのは、種々發展段階の異つた異質的な經濟によつて世界經濟が構成され、そのやうな世界經濟の上に貿易が行はれて來たからである。

そこで一つの國民經濟の生産力の増大といふ事が直ちに國民一般の厚生といふ意味を持たなくなると同時に、問題を世界的視野に廣めて考へ直す必要が出て來た。そこで問題は、資本主義なるものは必ず今迄の様な途をたどつて發展しなければならんだらうかといふ事になるんぢやないですか。

大河内 資本主義が今迄とは別の仕方發展する事も可能でせう。つまり貿易資本主義といふと變ですが、これに對して例へばアメリカ資本主義は資本主義として繁榮或ひはフル・エンプロイメントに持つて行く爲に、寧ろ植民地購買力を殖やしてマーケットを擴大して行く、民衆購買力を殖やして行く、それによつてアメリカの輸出産

業の面を伸ばして行く。このやうにイギリスとは違つた植民地經營の理念なり經濟組織の構想を持つてゐる。

東亞市場の考へ方もイギリス的なものとアメリカ的なものとは違ふと思ふ。そこに私はイギリスの資本主義の老衰した弱味があり、アメリカ資本主義のまだ發展の餘地のある若さがあるといふ感じを持ちます。

**土屋** 先刻、大河内さんのお話のビヴァリッチに於いて既に資本主義に關する考へ方が變はつてゐる。その變化を制約したもの、その基礎にはどういふことがあるんですか。イギリスの資本主義の變遷といふことに即していふと……。

**大河内** それは一つには前にビヴァリッチが不況期に失業問題を書いた時よりも、最近特に戰爭時代に入つてから數年間、イギリス資本主義の行詰りがひどくなつてゐるといふこと。例へば植民地の海外投資を全部喪つたとか、その他外債が殖えたといふやうなこと、併せて國內の勞働階級の政治力、組織力が非常に強まつて來たといふことに押されて、現實的な意味でヒューマニティーといふ一つの從來頭の中に描い

てゐた理念を現實政策の中に具體化して來なければならぬやうな、この切羽詰つた状態に追込まれて來たといふことぢやないかと思ふんです。

## B 國と階級とを超えた人間的立場からの經濟學

### 1 資本主義的經濟學に於て人間的立場がどうして展開されるか

**高橋** さつきのお話の中で從來の經濟學は技術的批判だといふことを中山さんも大河内さんもいはれたやうですが、その意味は一面は分るが、他面にはどうも私にはわかりかねる點があります。現在の立場はより根本的には寧ろ人間一般の立場からの批判といふやうなものが出て來てゐると思はれる。それが今の資本主義經濟に對する批判の立場であつて、それが展開される場合には當然統制主義經濟といふやうなところに行かざるを得ないのぢやないか。

此點は前に問題になつた批判の仕方或は分析の立場がおよそ階級的であり得るか、

あり得ないか、或は一般的であり得るかどうかといふ問題とも關聯して來るし、中山さんが前にいはれた一般的なといふか或は純粹なといふか經濟そのもの、理論といふものがあるかどうかといふ問題とも關係する。さういふ角度からケインズの最近の考へ方を見ると、前にはイギリスといふ國の國民經濟のために考へたやうですが、それが最近の考へ方或は構想はもつと人間一般といふ立場に立たうとして居る。例へば雇傭の問題ならばそれを世界の問題として、人類一般の問題として考へようといふ氣持が強くなつてゐると思ひます。

**中山**　そこが問題だ。人間一般の立場といふものは歴史的な批判からいへばないと思ふ。

**大河内**　いま高橋さんの言はれた人間の立場といふものが沿革的にはイギリス的の立場から出て、それがケインズになつて明かな形を取つて來たといふことは確かにいへると思ふ。然しその根據が僕は問題だと思ふ。

アダム・スミスにしてもその他凡て古典經濟學は皆さうで、意識的にせよ無意識的

にせよやはり人間の立場を取つてゐると思ふ。しかし同時に非常に濃厚にイギリスの立場を代表してゐるんです。ところがケインズは、ケインズのみではないのでせうが、イギリス的な立場或はイギリス的な問題から具體的に取りかゝつて結局人間的な立場にまで擴がつて來てゐる。

これは一體どう考へるべきか、僕もはつきりした自信はないんですが、やはりイギリスの資本主義といふのが一應行詰つてしまつた結果、もう一度改めて人間的な立場に立ちかへつて、嘗てのスミスがしたやうに廣い立場からもう一度逆にイギリスの立場に段々戻つて行くといふ第二回目の構想ぢやないかと思ふ。そんな風に考へてはいかんでせうか。

**中山**　私はその考へ方には非常に賛成です。いまわざといはれなかつたと思ふが、恐らくかういふことでせう。人間的な立場に問題があるといはれるのは、資本主義がスミスにせよリカードにせよ、あゝいふやうな形で經濟學が起つて來た時の人間的立場は、封建時代には問題にならなかつた第三階級といふやうなものが解放されて行く

その階級の立場を代表して人間的立場といつた。ところがその解放が政治的にも経済的にも或る程度完成してみると、従来考へてゐた人間的立場がいつの間にかその階級の擁護になつてゐる。かういふ面があるからその批判力が段々歴史的な意味を失つてしまふ。これを今一般的言葉で現せば技術的に陥つて行つたといふことになる。

**高橋** 今の大河内さんのいはれた現在の立場は、人間一般からイギリスの立場に轉換して來たといふことは『一般理論』までは確かにさうだと思ふ。しかし根本は人間一般の立場が考へられてゐながら、その人間が具體的に現はれる或は存在する仕方として雇傭せられる人間といふものが考へられ、そこで失業が問題になる。それがその當時、イギリスの一番大きい問題であつたといふところから實際の問題を取上げるといふことになれば當然イギリスの雇傭問題として現はれて來る。

ところがその後の状態からいへば、これは書かれたものがないのでハッキリしませんが、その完全雇傭の問題はイギリスだけの力ではどうにもならないやうな状態が展開されて來た。従つて問題の解決は寧ろ世界全體の立場に於て考へざるを得ない。そ

れがその後の經濟會議といふやうな所での考へ方ではないかといふやうに思ひます。従つてそれはズット續いてゐる人間一般の立場が、今度は世界全體、世界經濟といふ問題にもう一遍展開せられるやうな方向に向いてゐたのではないか、もう一遍方向が變りつゝあるんじゃないか。これは私の想像ですが。

## 2 資本主義的な人間の立場と社會主義的な人間の立場との對立

**大河内** 社會主義經濟學に於ける或る意味のヒューマニズムが人間の立場を象徴すると考へるならば、ヒューマニズムが政治に具體化される動機は社會主義的世界革命を通ずることによつて初めて生れるだらう。かういふ筋道で人間の立場といふものが將來に向つて展望を持つわけです。

ところがこれに對してケインズの場合はその所謂人間の立場といふのは現在のイギリスのみならず、ヨーロッパ各國、アメリカ及び特にソ聯といふやうなものを全體として含んだ當面の世界經濟の枠の中での全體の立場、さういふ意味で社會主義も資本

主義も後進の農業國家も全體を含めた人間の立場といふ抽象物をこゝで考へる。さういふものが相寄つて協力しなければイギリス自體の完全雇傭も達成不可能ぢやないか。世界の通貨の安定も貿易市場の進展も不可能ぢやないか。かうして人間の立場といふものを現状の儘で直接捉へる。それは明かに歴史的な立場を完全に通り返けない人間の立場だと思ふ。その意味で本當のヒューマニズムではないと僕はいひたい。ですから高橋さんのいはれたケインズの後半の思想の變化といふことは、僕も仰しやる通りだと思ふ。やはりさういふ人間の立場と社會主義的な人間の立場といふものは對立すると思ふ。

**高橋** それは對立すると思ふ。ケインズがイギリスを中心としてイギリスから出發してゐることには間違ひない。唯、理論としてあの理論が世界經濟の理論にまで行かなければならないやうな方向を取りつゝあつたと思ふのですが。

社會主義の場合に於て人間を經濟から解放するといふやうな場合、對象が非常にハッキリしてゐて、資本からの解放、現在の社會關係からの解放等といふ形で問題に

なる。それに対してケインズの場合、もしさういふことが考へられてゐたとすれば、それは今までの意味での經濟法則からの或は經濟理論からの解放といふことが考へられる。逆にいへばさういふ意味で經濟理論の改造といふことに考へ方が變つて行くといふ意味での批判であり、人間の解放であると思ひますが。

後

篇

前篇は「經濟學の將來」を主題にした懇談會の生の記録を整理したものである。だから本書の主體は前篇であり、讀者はそれによつて多くのものを得られるに違ない。その意味から言へば、更めて之が解説として後篇を附加へる必要はないとも言へる。然しまだ經濟學を或程度迄深く讀んで居ない人や、従つて自分自身此種の問題を持つ迄になつて居ない人達は前篇を讀んだだけでは充分意味のとりにくい所が相當あるだらうと思ふ。それ許りではなく、お互に話し合つて居る時は、言葉の抑揚といふか、座談の醸し出す空氣といふか、相互に相手方の言ふ所を容易に理解する事が出来るのであるが、之をその儘印刷にしたとなると話の意味が仲々のみこめないといふ場合も出て来る。前篇の整理には、此様な點も出来る限り考慮したつもりであるが、生の記録は生の記録として許される限り生かしておき度いと考へた。然し此事は或程度讀者の理解を犠牲にする必要があつた。

此様な意味から、懇談會の記録を材料にして、之を平易に解説し、筋路を立て、組織立て、見たのが此後篇である。だから本篇は經濟學を専門に研究して居られる人々

にとつては全くの蛇足に過ぎないかも知れないが、研究の比較的初期にある人々には幾分役に立つのではないかと思ふ。

## I 問題の提出

—「経済學の將來」が問題になるのは何故か—

### 1 問題提出の三つの動機

今後經濟學はどう變るだらうかといふ事は今日吾々の最も大きい思想問題の一つである。勿論此問題は、一應同じ形で提出されるとしても、人によつて色々違つた意味を持つて居るだらうが、然し少くとも現代といふ激しい激變期を自覺し内省するだけの能力があり、又思想が吾々の生き方や社會の形と内容とにどれ程決定的な重要性を持つかといふ事を考へ得るものであれば、何等かの意味に於て此問題を問題として採り擧げるに違ない。

そこで先づ考へておきたいのは、經濟學が今後どのやうに變るだらうかを事新しく



問題にする動機に就てである。これも此問題を提出する人によつて色々であり、必ずしも同じ動機からなされるとは言へないが、大まかに見て凡そ三つを挙げる事が出来るのではないか。第一は現實の經濟の急激な變化といふ事であり、第二は經濟の社會主義化・計畫化が必然的だといふ事である。更に第三は、思想的にも政治的にも資本主義に對する社會主義の攻勢が俄然激しくなつて來たといふ事である。此様な事態は、當然、從來の個人主義的・自由主義的經濟思想並に經濟學への反省をうながすと共に、經濟學は到底今迄の儘ではあり得ない許りではなく、今迄經濟學が發展して來たのと同じ方向に向つてその發展を續ける事も不可能ではないかといふ疑問を持たしめる。

こゝで上に掲げた三つの事態——實は之等三つのものは夫々獨立のものではなくして、實質的には密接に繋り合つて居るのであるが、此様な事態と此所に提出する問題との關係に就て、もう少し具體的に述べておく方が後の説明の爲に便利だと思ふ。

經濟思想は經濟の反映であるから、現實の經濟の變化は當然經濟思想の變化を伴ふ

に違ないといふ事は誰にでも容易に考へられる所である。徳川時代の經濟に就ての考方と明治時代の夫れとは非常に違つて居るし、それと今日の考方とも亦著るしく違つて居る。此事は既に一般の常識として知られる所である。此様な大きい歴史的發展に伴ふ思想の發展といふ事許りではなく、生産技術の大きい發見や、金山の世界的開發や、交通機關の劃期的發展といふやうな事、或は國家間の大規模な戰爭とか大きい國內的革命といふやうな出來事、此様な技術的、政治的急變に伴ふ經濟の急激な變化も亦經濟思想の大きい變化を伴はねばならない。此問題も此懇談會の題目として採り擧げられた所であり後に稍詳しく述べるのであるが、とに角長期間に亘つて現はれる徐徐なる經濟の變化も、急激な變化も、何れも經濟思想の變化を伴ふといふ事は誰しも考へざるを得ない問題である。

今度の世界大戰といふ未曾有の大事件から、世界何れの國も政治的に經濟的に激變せざるを得ない事になつたとすれば、經濟思想の方面にも同じやうに大きい變化が起らねばならぬ。かう考へるのは當然である。經濟思想が變つて來れば經濟學も亦それ

に伴つて變るのぢやないか。例へば從來の經濟學は個人とか個々の企業とか資本の行動とかの完全な自由が前提とされて居り、その完全な自由乃至自由競争といふ騰立の上に色々精緻な理論が組立てられて來た。處が今日並に將來の世界には此様な完全な自由とか自由競争といふやうなものは、たとへ原則的にもありさうには思へない。さうすれば、その點だけでも從來の經濟學は大きく變らねばならない。先づ第一に此様な事情が、經濟學の將來を問題にせしめる理由だと考へられる。

第二は今後の經濟は計畫經濟の方向に向つて行くだらう、少くとも或程度の計畫化が行はれるに違ないといふ一般的な考方である。此問題も尙後に詳しく觸れる所であるが、とに角從來の自由主義の原則では國民經濟は維持出來ないし、發展もしない。勿論どの程度迄計畫化するか、どういふ方式の計畫化をやるかといふ事は國によつても違ふだらうし、又今後色々な發展段階を經過して行くだらうが、手離しの自由主義ではやつて行けないといふ事は誰にでも判る。

例へば失業問題にして見ても、失業者のない完全雇傭といふ状態を目標にした經濟

態勢は自由主義では確立されないうやうに見える。然し國民總てに労働權を認め生存權を認めるといふ今日の思想からすれば、完全雇傭の實現は國家の義務である。それが自由主義でやつて行けないとなれば、何かの程度で計畫化して行くより外に道がない。生産の問題にしても同じである。これは貿易といふ様な國際經濟關係や、その國の資源や技術、更に生活水準等とも密接に關聯する所であるが、生産の自由主義はどうしても國際的矛盾を發生せしめ、それが延いて戰爭を惹起す危險性がある。國內的には労働者の生活を低い水準に縛りつけておく事ともなり、之が延てその國の生産力を低水準に止まらしめる事ともなり、それが又反作用して労働者の生活をより一層低い水準に落し込んで行くといふやうな關係もある。その他色々な國際的國內的矛盾の起らないやうな形で生産力を發展せしめようとするれば、國全體の經濟の計畫化は必至の方向ではないだらうか。

此様な現實の事態の外に、どこの國も戰爭中は強力な經濟統制なり計畫經濟なりの經驗を持つて居り、それが戦後經濟の經營に強い影響を持ち續けるだらうし、更に大

さい理由としてはソ聯の計畫經濟の明かな成功といふ問題も擧げられる。かうして計畫經濟又は經濟の計畫化が必至の方向だとすれば、自由主義の上に形成された從來の經濟學はも早現實から遊離した學問になつて了ふのではなからうか。一つの國の内部に於ては個人の完全な自由、世界の内に於ては一國の完全な自由を前提にした經濟學はなり立たないのではないか。かういふ疑問も亦當然である。

更に第三には、社會主義思想の勢力が非常に強くなつたといふこと、資本主義思想に對するその攻撃が益々するどく且つ積極的になつて來たといふ點を擧げねばならぬ。之には色々な理由が考へられるし、國によつても亦異なる理由もあるだらう。然し社會主義思想が第二次大戰後急激に前面に押し出されて來た許りではなく、各國の經濟政策の上にも強い實際的な影響を與へて居るといふ點は世界共通である。

之を日本だけに限定して見ても、政治思想と經濟思想とに關する著書や評論に於て社會主義が如何に急激に盛となつたか。政治的にも折衷的な社會黨から共產黨に至る迄、大なり小なり社會主義思想の上に作られた黨派が急速に勢力を得て來た。勿論日

本の此様な思想的、政治的變化は占領軍によつて與へられた思想の自由といふ事が直接の大きい原因である事は言ふ迄もない。然し此場合の思想の自由といふのは、思想の解放といふ意味から始つて居るのである。だから解放さる可き思想は豫め裏面に於て形成されて居た筈であり、それが唯表面に浮び上つたといふ事である。然し解放によつてそれが表面に浮び出る事が出來たといふ事も、況んやそれが大きい社會思潮として多數の國民の頭の向け方を變へる程の力を持つて來たといふ事も、總て現實的經濟的地盤が出來て居たからの事である。狭められた領土と資源、壞滅した生産設備、インフレーションによる生産と生活との破局、日々大量化する失業と餓死、道義の恐る可き頽廢と一切のものに對する不信認。此様に慘めな混沌とした事態に直面して了つた以上、ありきたりの既製品的思想では問題は到底背負ひ切れるものではない。從來の自由主義や資本主義に對する疑惑と不信認、それに反比例的に社會主義への期待といふ思想的轉換が現はれざるを得ない。社會一般の考方に此様な大きい轉換が起つて來た以上、從來の自由主義經濟の上に築き上げられて來た所の、所謂資本主義的經

濟學の今後の在方が問題にされるといふのも當然と言はねばならぬ。

一五八

以上、經濟學の將來といふ事が誰にでも一應問題とされるやうになつた主たる理由を三つ考へたのであるが、之等は元々獨立の理由といふのではない。第一の經濟の變化といふのが、第二の經濟の計畫化といふ形で現はれて來たのであり、第三の社會主義思想の攻勢は此様な經濟の變化を地盤とするものである。だからかういふ意味から言へば、理由は一つである。現實の經濟の急激な轉換の内に、經濟學だけが從來の儘であり得ないのではないかといふ事は常識的にも考へられるわけであり、今後經濟學はどうなるかといふ漠然とした形で出される問題も、學問としての經濟學にとつても、現實の經濟にとつても誠に深刻な意味を持つて居るのである。

## 2 マルクス主義經濟學と理論經濟學との交渉並に 第三經濟學の可能性を問題にする

以上の理由から經濟學の將來が問題にされるのであるが、此問題をもう少し具體化

した形で言ひ現して見れば、將來の經濟學は依然として資本主義經濟學であり得るか、或は社會主義經濟學によつて代られるかといふ形になると思ふ。勿論此様な形で問題を提出するのも同じやうに素朴であり、専門家的或は學問的ではない。といふのは、相互に對立するものとしての資本主義經濟學とか社會主義經濟學とかの言葉の意味は決して明確ではないからである。然し此様な素朴な形で問題を出すといふ事も決して理由がない譯ではない。前に述べた三つの理由からも容易に理解されるやうに、現實の經濟は自由主義を基調とする資本主義から、計畫化された社會主義へ移つて行く、或は計畫化乃至社會主義化の色彩が大なり小なり濃厚になつて行くといふ事は世界共通の傾向である。さうすれば從來の資本主義經濟を對象としたものから、社會主義經濟を對象としたものに變つて行くのではないかといふ風な疑問が持たれる。

然し經濟學は資本主義經濟學でなければ直ちに社會主義經濟學だといふ風に考へないで、之等何れでもない第三の經濟學、言ひ換へれば資本主義經濟にも社會主義經濟にも共通な經濟學といふ所に發展して行くのではないかといふ形で問題を出す事も出

來る。所謂社會主義經濟學と所謂資本主義經濟學とは相互に飽く迄も對立するものであり、従つて一方が没落して他方が之れに入れ替るものだといふ見方もあり、之等二つの經濟學は對立するものではなくして相互に交渉して第三の經濟學に成熟するといふ考方もあり得るからである。

既に一九四一年に「マルクスの失業問題」といふ論文でロビンソン夫人が次の様に述べて居る。("Marx on Unemployment," Joan Robinson, *The Economic Journal*, June-Sept., 1941)。近年マルクス主義者と理論經濟學者 Academic Economists との關係が變つて來た。マーシャルの時代には之等兩つの系統の間には尙超え難い溝があり、一方は資本主義制度の害惡をあばく事に専念し他方は資本主義を明朗な色彩で畫き上げようとした。一方は資本主義制度を移り行く歴史的一過程であり、自らの裡に自己崩壞の芽を含むものと考へ、他方は同じ資本主義制度を永久に存続する所の、殆んど論理的必然と見たのである。二つの系統の間、外見上の、然し根本的な此様な對立は各々の使ふ言葉の相違によつて支へられた。といふのは何れも独自の見方によつて強く色

づけられた言葉を使用して來たからだ。例へば理論經濟學者が資本に對して得られる利子といふ言葉を使ふ場合、それを節慾乃至待忍に對する報酬といふ意味に用ひ、又利潤といふ言葉を企業に對する報酬の意味に用ひる。之に對してマルクスは利子並に利潤(並に地代)を不拂労働或は餘剰労働(即ち労働の生産した價值から労働に支拂つた價值を差引いた餘剰)として扱ふ。此様な、態度上の完全な相違が二つの學派の相互の交渉を全然不可能なものにしたのである。

ロビンソン夫人は更に續けて述べる。

處が近年大部分の理論經濟學の内に顯著な變化が起つて來た。時の事情の要請によつて、理論經濟學は、獨占と失業といふ二つの問題に集中されざるを得なかつたのであるが、此事は當然の結果として、現在の制度が、可能なる限りの經濟制度の内の最善のものであるか何うかといふ疑問を提出せざるを得ない事となる。そこで理論經濟學者は現在の制度の長所の分析よりも寧ろその缺陷の分析に努力を傾ける様になつた。單に資本(待忍)を所有するといふ事が生産活動を意味するといふ考方が捨てら

れ、資本夫自體を労働と同じ立場に於ての生産要素とするのは誤りであるといふ見解が有力となつて來た。例へばケインズは「一般理論」に於て「労働を……技術、自然的資源、資本設備並に有効需要の一定の環境の下に働く所の唯一の生産要素と考へる方がよい」と述べて居る。それよりもつと重要な事は、資本主義は最早永久の必然ではないと考へられるやうになつたといふ事である。ケインズは同じ書物の中で「資本主義の地代所得者の側面は傳統的な面であり、その役割を果した後には消え去るものだと私は考へる」と言ふ。更にヒックスは「價值と資本」の中でかう述べて居る。「何か資本主義制度の如きものが（投資を續けて行くに充分強力な革新の連續が失はれる場合）いつ迄も生き残ると安心していゝものとは考へられない。……過去二百年に亘る全産業革命は恐らくは巨大な世紀的ブームに過ぎない。」此等の斷言は「マーシャルよりも寧ろ遙かにマルクスに近く、カレツキが「經濟變動の理論に關する研究」の内で「投資は有用である。その爲に投資は恐慌の原因になる。これが投資の悲劇である」と述べる時、彼はマルクスに非常に接近して來る。マルクスは資本論に於て

「資本主義生産の實質的障礙は資本夫自體だ」と述べて居るからである。

理論經濟學とマルクス主義との間の言葉の相違から來る溝を取り去る事によつて二つの學派の橋かけをする時が熟した様だ。これがロビンソン夫人の述べようとする所である。最近木村健康助教授が世界經濟評論七月號に於て、理論經濟學界の共通的地盤として論じて居られるのも同じ立場に立つものと思ふ。

以上の様に考へると、經濟學の將來は、第一はマルクス主義經濟學と自由主義を地盤として形成されて來た理論經濟學（之等を使宜上社會主義的經濟學並に資本主義的經濟學と呼ぶことにするが）とが如何に交渉するか。第二は資本主義的經濟學が社會主義的經濟學を攝採して、第三の經濟學を形成する可能性があるだらうか、又それと同時に現實の經濟の計畫化並に社會主義化の促進に伴つて理論經濟學自體としてどういふ發展をするだらうか。更に第三には、資本主義經濟が社會主義經濟に移つた場合にも尙資本主義經濟の遺産としての經濟學が何等かの形に於て存續し得るものだらうか。かういふ形で問題を提出する事が出来る。

## II 經濟・經濟思想・理論經濟學

### 1 經濟思想と理論經濟學との變化に就て

生産の様式なり生産關係なりが變化すると經濟思想も亦變化する。經濟思想とは此様な經濟に關する考へといふ意味に過ぎないのであるから、思想の對象に變化があれば思想の内容も形も亦變つて來るわけである。然し思想は人間の外部から自然的に與へられるのではなく人間が考へるのであるから、そして考へる人間は一定の生産様式生産關係の内部にあつて、即ち一定の經濟の枠に止めつけられた人間として考へるのであるから、經濟思想は常に一つの批判的精神によつて發動すると共に、何等か階級的な立場によつて束縛されるのが一般である。

例へば古代ギリシャの經濟は一面奴隸經濟と言ふ事が出来るが、アリストテレスは此様な經濟の内に經濟を考へた。そこで彼は奴隸を人間的な存在とせず、人格のない

生産用具と考へたわけであるが、更に彼はかく奴隸を認識することによつて奴隸制度といふ生産様式と生産關係とを擁護したといふ事、更に當時の奴隸制度反對論に對する反批判を行ふ事によつて當時の支配階級の立場を明にして居る。重商主義經濟思想は農民に對しては商工階級の立場に於て、當時形成の初期にあつた賃労働者階級に對しては初期的商業資本家階級の立場に於て、輸出貿易と輸出品工業との保護獎勵政策を擁護して居る。經濟思想の此様な性格はその後色々な思想の系統を通じて今日迄變つては居ないし、將來も亦さうであると考へられる。

理論經濟學は經濟現象の説明原理であるからその性格上遙かに客觀的であり普遍的である筈である。然し本來經濟學は現實の經濟現象を説明するといふ實證科學である以上は、經濟現象自體が變化すれば經濟學の内容も亦變らねばならぬ。それ許りではなく、色々な經濟現象間の關係に關する新しい發見や、統計的資料並に研究方法の發展、或は論理的發展等によつても亦理論經濟學の内容が變化し又豊富になるといふ事も考へられる。然しそれによつて理論經濟學の本質に變化が起るものか何うかといふ

事になると異論の對立する餘地があり、此點は尙後述べる所に譲らねばならない。

理論經濟學はその性質上客觀的且つ普遍的である筈であるが、その形成の歴史から見るとやはり事實は批判的であると共に階級的である。所謂資本主義經濟學は封建主義經濟乃至前期資本主義經濟に對する批判といふ立場によつて發動されて居り、之が同時に資本主義經濟の擁護といふ立場を採つて居る。處が資本主義經濟の矛盾が段々大きく現はれて來ると共に、最早自由主義を地盤とした自然發展的な資本主義自體によつては之等の矛盾が調整され難いといふ現在の段階に迄到達した。その場合、理論經濟學は最早單純に從來の擁護的な立場を固執する事が出來ないで反つて資本主義經濟に對する批判的立場を採るやうになつた。此事は響きに引照したロビンソン夫人の記述にも明かにされて居る所である。

此様に理論經濟學が批判的であるといふ事は必ずしもその客觀性を損ふものではない。それが現實に客觀的であり得るか何うかは結局研究の方法と用ひ得る理論武器の問題である。然し同時に理論經濟學が階級の立場を離れ得ないといふ事になると、

それは明かに科學としての純粹性を損ふわけである。資本家階級の立場から特定の經濟、例へば資本主義經濟を批判乃至擁護するといふ事は労働者階級の立場からは客觀性が認め難いといふ事になるかも知れない。労働者階級の立場よりする批判乃至擁護も亦之と同様である。然し此様な階級的立場を超えて、所謂人間の立場からの經濟理論に到達しようとする努力はされつゝあるのである。果して階級を超え、民族を超えた客觀的純粹理論が事實に於て形成され得るか何うかは問題であり、後にも述べるやうにそれは到底不可能だといふ考方もある。然し理念的には可能であり、それに向つて不斷の努力が傾倒されてゐる事は、現在の理論經濟學の動向にも亦明かに示される所である。

## 2 經濟の變化は經濟思想を如何に變化せしめたか

こゝ迄は懇談會の内容を解説する爲の準備的説明であり、解説者としての筆者の意見である。そこでこれから懇談會に於て述べられた意見を或程度體系化して解説的に



書いて見よう。

第一に問題となるのは、生産様式なり生産關係なりの變化に伴つて經濟思想が具體的にどう變化したかといふ事である。之は日本に限定して考へて見ても、徳川時代にも明治時代にも又最近にも多くの實例を求める事が出来る。

(徳川時代の農業思想)

徳川時代の例としては宮崎安貞と大藏永常の二つの農業思想はこの點から見て非常に興味がある。宮崎安貞は元祿十年に「農業全書」といふ書物を出しそれによつて五穀を中心とする多種類の農作物の耕作技術を説明して居る。徳川初期から元祿にかけての我國の經濟は未だ農業を地盤とする封建經濟であり、商業並に工業は都市を中心とする手工業ギルド制の時代、工場手工業さへもまだ現はれては居ない。従つて農村の自給經濟態勢は始んど完全な姿で残存し、商品生産としての農業は僅かに例外的な部分を占めるに過ぎなかつた。此様な經濟における農業思想は當然農家の自給經濟の維持と發展、並に年貢としての米の増收を中心とする耕作技術に集中するわけであ

る。つまり貨幣經濟がまだ充分農村に浸透せず、従つて農業が商品生産化して居ない時代の經濟思想を代表するものと言ひ得るだらう。

之に對して大藏永常は享和以後徳川後期の農村經濟に於て「交易國參考」といふ書を出して居る。徳川時代も中期から末期にかけて、商業資本の蓄積が發展し、家内工業、工場手工業等商業資本の活動が漸次日本の經濟を近代化する準備を整へて來た。農業も亦之に伴つて商品生産的色彩を、或程度ではあるが濃化せざるを得ない。此様な農村經濟の變化の裡に、大藏永常が農家に奨励したのは収益率の高い、廻轉率の早い農作物であり且つ容易に貨幣化し得る副業であつた。かうして此所に現はれる農業思想は貨幣經濟が漸く農村に浸透して行つた時代、商業資本が都市を中心として支配的勢力を擴大し初め、漸次農村に及ぼんとする時代の經濟思想を代表するものと言ひ得るだらう。

(明治時代のインフレ思想と現代のインフレ思想)

明治初期のインフレーションに對する思想と最近の夫れとの比較も亦此問題のよき

實例である。

明治十一年から十四年にかけて今日の所謂インフレーションが起つて居る。米價が約十割の騰貴を示し、鹽、油、薪、木炭等總ての價格が米程ではないが夫々相當に騰貴を示した。然し賃銀は物價騰貴よりは遙かにおくれて二―三割程度しか昇らなかつた。今日のインフレーションと數字的に比較すれば輕微ではあつたが當時としては國民の困窮甚しく政府も之が對策に腐心する所があつた。當時インフレーションの原因に就て、銀貨の價値の騰貴に歸する考方と不換紙幣の増發に歸する考方との二つがあつたが、結局田口卯吉、福地源一郎等を主とする後者の考方が濫澤、松方等の容れる所となり、所謂健全通貨主義によつて對策を立てた。即ち不換紙幣を整理して兌換制度を確立すること、同時に財政の緊縮を行つて不換紙幣發行の根源を絶つといふ事であつた。かうして明治十八年に大體紙幣整理が解決され、十九年に兌換開始となり、結局松方デフレ政策によつてインフレーションが解決された。之に對して今日のインフレーションに於ては單なる健全通貨主義では解決されない

といふ考方、銀行の國有乃至國家管理、重要産業の國有乃至國家管理、軍需補償の打切、其他總じて經濟の計畫化或は社會主義化を行はなければ根本的な解決は不可能だといふ考方が支配的になつて來た。

即ち明治時代のインフレ對策は總じて經濟を常道に戻すといふ所に目標がある。上述した様に當時の考方には、インフレの原因に就ても對策に就ても色々違つた意見があつたとしても、之等總てに共通する所は常道に歸るといふ事である。換言すれば經濟の自然法則に従つて問題を解決するといふ立場である。不換紙幣の亂發とか赤字財政とかの様な攪亂的要因さへ排除して了へば、自由經濟の法則が自然的に作用して再び元の常道的な經濟に復歸するといふのである。

處が第二次大戰後のインフレ對策としては、どこの國も唯單純に元の經濟に復歸する。經濟の自然法則に従つて問題が解決されるものとは考へて居ない。勿論此場合と雖も經濟法則に従はなければ問題の解決は不可能であるが、その手段の内には遙かに積極的な面が現れて來た。即ち經濟の計畫化といふのが之である。之は勿論日本ばかり

りの問題ではなく、アメリカに就て見ても同様であり、原則的には一應自由資本主義経済の立場でインフレーションを解決しようとして居るにも拘らず、事實はやはり計畫的色彩が段々濃厚になつて來て居る。

インフレーション思想が明治初期と今日とによつて此様に違ふといふのはやはり此間の経済の間に大きな相違があるからである。明治初期と言へばまだ我國には近代資本主義が確立されず、謂はゞその準備期である。だから此當時のインフレ對策は嚴密に言へば常道に進むと言ふ方向を採つたのであり、當時の正統學派の自由主義經濟思想がその儘採りいれられたものである。我國の經濟そのものが封建の殻を破つて自由資本主義經濟に發展する少年期にあつたといふ事情から此常道復歸、更に正確には常道への發展對策によつて問題が解決されたわけである。

處が今日の日本は既に資本主義の謂はゞ老年期に入つて居るのであるから單に常道復歸では解決されない。特に第二次世界大戰を経た今日では、勞働者の地位が急激に高まつて來たと同時に他方では失業者の大量出現がある。従つて物價水準の上昇に伴

つて貸銀水準の引上は不可避の問題であるし、失業救済の爲の巨額の國家支出も亦不可避である。國民生活を維持する爲には何等かの價格統制なり配給統制なりを行はねばならぬ。又社會的見地からの生産力を増大する爲には銀行の自由主義的な貸出政策は許されない許りでなく、此所にも亦國家支出の累積は不可避的である。勿論今日の日本はまだ社會主義經濟になつて居る譯ではないから、色々修正された形ではあつても健全通貨主義の適用される餘地は尙充分にあり、不換紙幣の整理も緊縮財政の確立も明治初期と同様に必要である。然しより根本的には經濟の計畫化によるのでなければ解決し切れないといふ段階に入つたと言はねばならぬ。

#### (第二次大戰後の經濟思想)

此様にインフレーション對策に就て見ただけでも、明治時代と現在との間には大きい思想上の相違が見出されるのであるが、第一次大戰後と今度の第二次大戰後の思想を比較しても經濟思想一般に著るしい變化がある。

第一次大戰の場合の戦後經營の立場は原則として自由經濟の立場、前に述べた言葉

で言へば常道に歸るといふ立場であり、大戦直前の一九一三年を大體の目標として、そこ迄戦後經濟を回復し安定させようとした。生産の恢復にしても、金本位制への復歸にしても總ての經濟部面に就て一九一三年が目標とされた。尤も當時の行方をもつと詳しく見れば必ずしも總ての國が一樣の経過をたどつて自由經濟に歸らうとしたのではない。アメリカの様に最初から自由經濟への復歸を目標にした處があると共にドイツやソ聯等では大なり小なり計畫的要素をいれて回復しようとして居る。これはソ聯の場合は別としてドイツ等の場合には大戦中の計畫經濟の經驗があつたりしてその經驗を生かして戦後經營をやつて行かうとした。かういふ意味から言へば大體二つの流れがあり、既に自由經濟か計畫經濟かといふ問題は第一次大戦後に問題となつて居たわけである。然しソ聯を別とすれば結局は自由經濟の常道に歸るといふのが世界各國の立場になつた。

處が第二次大戦に於ける戦後經營は、戦争前のどこか安定的な年次を擇んでそこへ歸るといふのではなくして、最初から計畫的にやつて行かうとする。生産にしる消費

# 欠